表紙, 目次, 漫録, 雑纂, 雑報, 通信

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38384

十全會雜誌

第六十五號

明治四十四年六月二十日發行

金澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌第六十五號目次

○原著及實驗

●ポール氏ノ肺氣腫發生說ニ就キテ。　ドクトル　竹中繁次郎氏
●腸窒扶私菌ニ因スル皮下膿瘍ノ一例ニ就テ。　中村欣一郎氏
●澎湖島衛生一班ニ就テ。　陸軍二等藥劑官　金堂圓氏

○漫　錄

●醫師と政治

○雜　纂

●ヨハ(四%「サルブルサン」油劑)。
●サルブルサン使用法改正セラル。
●梅毒ノ「サルブルサン」療法ノ通覽。
●六百六號使用法ノ優劣。

○內地雜報

●醫師の分布。●鑛泉調査の方針。●第十二回北陸醫會。●壯丁のトラホーム。●本年度の各地衛生費。●盲人衛生事業從事者。●富山赤十字支部病院落成。●表彰されし衛生功勞者。●各醫學會總會概況。

○外國雜報

●獨逸醫科大學々生數。●マニラ木邦藥劑師試驗に關する件。

○醫校雜報

●醫專校長會議の結果。●岡山醫專校規則改正。●陸軍委托生總數。●海軍々醫と醫專校。●奉天に於ける醫學の勃興。●奉天醫學校生徒募集。

○校內雜報

●第五回陸上運動會記事。●野球大會記事。●三年級々會。

○通　信

●日野信次氏通信。●那谷與一氏通信。●長井敬孝氏通信。●伊藤善次氏通信。

○人　事

●神谷貞次郎氏の訃。●中野源一氏の訃。●田中義雄氏の訃。●山碕教授。●高安會長。●金子教授の不幸。●野田忠廣氏。●松王數男氏。●片山良作氏。●樋口平次氏開業。●伊坂春氏。●增井榮太郎氏。●今井外吉氏。●竹中精一郎氏。●木村朋三氏。●辻井禮太郎氏。●森桑次郎氏。●山岸缶氏。●奥山義盛氏。●山碕軍治氏。●那谷與一氏。

○會　告

●校外特別會員會費領收報告。

○廣　告

●數　件

漫錄

醫師と政治

德川幕府擅權の世、士人治に馴れ、爲す所なき時に當り、英雄の資を抱て時の大老保科公の賓師とふり、不世出の鴻儒として公卿侯伯擧つて駕を枉げ、數千の子弟殆んど君主の禮を以て待ち、其學は宋儒の義理心法を、日本的に應化し、皇國の古典を研鑽して、一派の神道を興し、內外尊卑の分義を明にして、漢士崇拜の弊風を打破し、心術の實行を重んじ、士道砥礪の氣風を傳へたる山崎闇齋先生の如き、欽仰すべき傑才を吾人等が先生として世に其名譽を誇とするのである。

王佐の才ありて鴻儒の學を兼ね、武士道の教義より國家經倫の道に及び、綜宏該博著書數百卷、某編次したる中朝事實は、國體の精華を發揮して、王政の盛美を顯揚し、兵學者としては由井正雪、長沼澹齋の上に立ち、諸侯士太夫爭ふて子弟の禮を執り、其門に聚る者數千人、其家給は優に侯伯を凌ぎ、其名望は一世を傾く、終には幕府の忌む所とふりて、赤穗藩に幽閉の身とふりたる山鹿素行先生の如き、景慕すべき俊傑を、吾人等の同門より產み出したる光榮を茲に表彰するのである。

其他普通教育の道義を闡き、濟世利人の道を說きたる益軒貝原先生の如き、報國一片の丹心鬱勃として止まず、劔鐔には赤心報國の四字を刻み、威風堂々尊王の大義を喝破し、近代勤王家の原種として靖獻遺言の著者として名聲海內に轟し淺見絅齋先生の如き、常に湯武の放伐を亂罵し、夙に尊王の大義を唱へて苟くも大義を誤るものあらば直に立て天誅を加へよと門生に叫びたる、絅齋門下の傑物若林强齋先生の如き。

英傑の資を以て一世を睥睨し、浩博の學を以て海內を風靡し、儒道を以て政治に貢献し、好んで兵書と律書とを講述して、當路者を導きたる、荻生徂徠先生の如き、闇齋派の學說及兵術を公卿に授け、陰に王政復古の道を傳へて、幕吏に捕へられたる竹內式部先生の如き、海內の侯伯皆幕府の威權に屈從し、口を箝し、息を殺せるの時に當り、慨然として敵愾忠義編、王道興衰策の二書を著し、武門の專橫を痛斥して、王室の式微を深慨し、高山彦九郎と謀議して、將に驚天動地の快擧に出んとしたる九州勤王の淵源たる醫家富田大淵先生の如き、數へ來れば吾人等の先人が、如何に皇國振興の一事に、其心血を捧げし事の多かりしぞ、若し夫れ西山拙齋、前野蘭化、本居宣長、平田篤胤、佐藤信淵、鹽谷容陰、森田節齋等の諸先生に至りては、或は醫藥を視るの傍ら幕政の專橫を憤りて王威の宣揚を策し、或は一生を科學の研鑽に委れて醫學、算術、地理、天文の諸科を西洋文明の精粹に求めたる、或は古文典を究極して皇道の淵源を闡明ならしめ、或は民政を攻究して農牧、漁鹽、堤防、航運の術を授け、或は國防用兵の事を論じて列藩の興起を促し、或は海外の事情を傳へて、時務の樞議及海防の要策を唱へて一世の耳目を提醒し、或は氣節文章一代を動かし、尊攘の大義を講ずて、士氣を鼓舞せる等、盡く是れ意志剛健、氣象英邁を我國民に遺傳せしめたる崇敬すべき吾人等の先人にてありき。

尙筆端を進めて吾人等同門の士にして、國步艱難に盡瘁し、世運の惰氣を鞭撻して、皇威の振興に魁し、將た現代文明の始祖と仰がれたる者の甚だ少からざるを教へ得るのである。

東奥永澤の一小醫に身を起し、憂國慨世の情闇々止まず、身を挺して江戸に入り、俊邁なる氣節と該博なる識見とは、私かに外國の書を飜譯して、憂國の志士に頒ち、勃々たるその至誠は、凝つて夢物語の一編を草せしめ、遂に幕吏に迫られて、身を殺したる、偉人高野先生の如き、或は小關三英、

鈴木春山二氏の如、水戸の村醫より藤田東湖先生に師事し、國事を慨して、遂に奇禍に罹りたる櫻任藏氏の如き、鹽谷宕陰先生に從學し、常に岳飛を景慕して自ら景岳と稱し、春嶽公を佐けて藩政を改革し、天下の志士に交りて、國事を談論し、日露同盟の鴻圖を抱いて宇内に雄飛せん事を策し、彼の英傑西郷吉之助をして吾が畏るゝ所の者は只此漢のみと舌を捲て歎賞止ざらしめし、一代の俊髦も惜むべし年僅に二十又六にして慕吏の陷るゝ所となり、絶大の經倫を抱きし池中の蛟龍は、空しく小塚原刑場の露と消へにし南越の志士橋本左内氏の如き、村醫の家より拔擢されて籍を士分に連ね、國政の樞機に參與して諸藩の間を往來し、長加連合の謀主として幕府の責むる所となりて遂に死刑に處せられたる、加賀の小川靖齋氏の如き、其他河本正安、越智通恒、小山春山、久坂玄機、久阪玄瑞、永富獨嘯庵、宮部鼎藏、栗本靖雲、石川櫻所、那珂梧樓等諸氏の如き、何れも一代の傑物であつて、世道人心に甚大なる貢献を爲したる事は、謂ふまでも無い事實である、而して是等の諸氏が悉く吾人等同門の士であるとは何んと世に誇るに足るべき事ではあるまいか。

是を我浪華の都に於て求めんか、緒方洪庵先生の如き、即ち夫れである、且には玄妙の機微を說いて夕には品性の涵養に勉め、專心一意以て濟世利民の道を講ぜられたる、其門下よりは大村益次郎の如き、大鳥圭介の如き、福澤諭吉の如き、長與專齋の如き、明治照代の英物傑士が雲の如くに生み出されたのである。

我帝國の歷史を繙くと、箇樣な事蹟が顯れて來るのである、特に其近世史に於て數十ページを色彩りたる花形役者の多くは、吾人同門の醫家出身者である、ナント是丈の能力、是丈の手腕が在つても矢張醫人は經國治民の能力を持ない者であると言ひ得るであろうか。

若し夫れ世俗が稱して以て成功とするものゝ中で同じく醫家出身者にして政治的方面で所謂る成功したる人々に就て、最近の事蹟を少しく語つて見よう。

今の陸軍參謀本部長の前身たりし、兵部大輔の位地を蹈み、近さは上野の戰鬪違きは奥越北海に轉戰し陸海軍を指揮督勵し、後軍政の革新創建に一身を捧げ、功業未だ中半にして空しく雄魂を抱て守舊武士の鋒鏑に斃れたる大村益次郎氏の如き、維新十數年來外交の衝に立ち、内には頑固の士民紛訌を事とし、列國の乘ずべき機會甚だ多き間に處し、罇俎の手腕、折衝の技倆は列班の諸卿をして能く安んじて心を内政の刷新に專らしめ、外務文部の諸卿を經て、後ち元老院議長の要職に歷任したる寺島宗則伯の如き、大藏其他の重職を經後ち專ら餘力を勸業、赤十字の文明的大事業に盡くしたる伯爵佐野常民子の如き、明治の初より一身を外交の機務に捧げ、出ては遣外派臣として久しく歐洲諸國に駐在し、入つては外務大臣として廟堂の一角を占めたる、子爵青木周藏氏の如き、何れも是れ維新中興の宏謨を翼贊し、國運發展の鴻業を經綸したる偉大なる建業者として、朝野の等しく欽慕措かざる所である。

尙醫家出身者としては、谷鐵臣翁の如き、男爵箕作麟祥、男爵大鳥圭介、長與專齋、渡邊洪基、鹽田三郎、小松彰、小崎利準、古莊嘉門、日下義雄、安藤太郎、木間清雄、及故海軍中將角田秀松等諸氏の如き、何れも當代の俊才傑士として、名聲を一代に馳せたるもの、彼の伯爵芳川顯正、男爵平田東助、男爵菊池大麓氏の如き、日英同盟の締結に於て最も功勳を奏したる伯爵林董氏の如き、に至りては、盡く醫家人種であつて、政治外交に、將た教育に何れも隆々たる盛名を現代に縱にしたる者であつて、又得易からざるの逸才であると謂ばればならぬ。已に揭げ來りたる志士と稱し、元勳と號する内には、維新數年前に於て、醫業を民間に開いて總髮、羽織、雪駄の出で立ちで患家を見舞ばれた人々も少くないとの事である、無論箇樣な先生達であるから學識もあろう、定見もあろう、彼の叩頭百拜主義の歡迎者である一派の人々には到底容れられそうもない先生で在つたに相違

あるまい。

若し夫れ故伊藤公が好漢惜むらくは餘りに熱血に過ぐと、一言彼を戒めたる當代の寵兒遞信大臣鐵道院總裁拓殖副總裁後藤新平男に至りては純然たる刀圭家で、彼が政治家としての能力手腕は世の等しく認むる所である。其他醫家より出たる人々で、法學には梅謙次郎、山脇玄氏等理工科には高峰讓吉、長井長義氏等、文學に於ては森林太郎、井上哲次郎氏等、指を屈すれば尙數十名を得べく、當代の文學及科學の發展は、共に吾人同門の士に負ふ所甚だ少くないのである。（醫海時報抄）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

雜纂

●ヨハ　Joha.

（四〇％サルヴルサン油劑）

「ヨハ」と名命セルモノハ四〇％「ヂオキシヂアミドアルゼノベンツオール」の油劑ニシテ殺菌シテ直チニ注射スルニ適セル樣製成セルモノナリ。伯林ナルドクトル、カーデ氏オラニエン製藥所ヨリ發賣セルモノニテ、「ヨハ」一立方仙中ニサルヴルサン〇、四ヲ含有ス。

「ヨハ」ハシンドレル、ナイセル兩氏ノ處方ニ依リ製造シ、ブレスラウ醫科大學ニ於テ實驗セルモノナリト云フ。

「ヨハ」ノ特點ハ保有スルコトヲ得、且ツ吸收サレ易ク、「サルヴルサン」注射ニ際シテ從來ノ如キ繁雜ナル溶液ヲ製スル手數ヲ要セズ、直チニ注射シ得ルニアリ。

ブレスラウ大學及ビシンドレル氏ノ實驗ニヨレバ疼痛ナク、滲潤ヲ殘サズ、又不快ナル副作用ヲ見ズ、殊ニブレスラウ大學ニ於テハ小兒ニモ之ヲ使用シ、何等ノ障碍ナキヲ見タリ。

用量、其例ニ從テ「サルヴルサン」療法ヲナスベキモノニシテ二回注射シ、其間十日位置クベシ。其用量ハ「ヨハ」一・〇―一・五―二・〇ヲ用ユ。（「サルヴルサン」ノ量ハ〇・四―〇・六〇。八ナリ）。注射後ニ腫張アルモ、直チニ完全ニ吸收セラル。吸收ヲ良好ナラシメン爲メニプリースニツツ氏纏絡法ヲ施シ、數日安靜ナラシムルヲ可トス。

注射法ハ單純ナリ。殊ニドクトル、シンドレル氏ノ注射器ヲ使用セバ最モ便利ナリ。此注射器ハ使用ニ際シ依的兒又ハ純酒精ニテ殺菌シ、次ニ多量ニ流動「パラフイン」ヲ通ジ、次ニ流助「パラフイン」ヲ多量ニ入レタル硝子器中ニ入レ置クベシ。使用後再ビ流動「パライン」ニテ洗ヒ、又以前ノ硝子器中ニ保存スルヲ可トス。

注射部位ハ臀部ニ於テ筋肉又ハ深ク皮下注射スベシ、皮膚消毒ノ目的ニテ沃度丁幾ヲ塗布スルヲ簡便トス。注射後少ナクトモ二十四時間安靜ナラシムルヲ要スルガ故ニ注射ハ午後ニ於テナスヲ可トス。

●サルヴルサン使用法改正セラル

エールリツヒ博士ノ指定ニ依リ「ヘキスト」會社ヨリ發表セラル。

▲理化學的性狀

「サルヴルサン」ハ黃色粉末ニシテ約三十四％ノ砒素ヲ含有シ水ニ溶解シテ強酸性反應ヲ呈ス。

▲適應症

本劑ハ第一期第二期第三期黴毒及ビ其ノ隨伴症狀ノ治療幷ニ豫防療法ニ適ス。本劑ノ主要適應症ハ惡性黴毒及ビ頑固ナル粘膜黴毒ナリ。殊ニ沃度及ビ水銀劑ノ奏効セザル場合ニ卓越ナル効ヲ奏ス、又姙婦乳婦ノ黴毒幷ニ遺傳黴毒ニ用ヒテ著シキ効驗アリ。從來ノ經驗ニ徵スレバ本劑ハ脊髓癆ノ初期及ビ黴毒ニ因スル早期麻痺及ビ癲癇ニモ極メテ初期ニ用ユレバ効驗アリ。回歸熱及ビ一般「スピロヘーテ」病幷ニ「マラリヤ」及ビ瘧氣熱ハ何レモ「サルヴルサン」ヲ以テ治療シ得ラル可キモノナリ。天疱瘡、扁平紅色苔癬、苺痘、鱗屑疹ノ重症ナルモノ幷ニ神經及ビ血液疾患ニシテ砒素劑ヲ用フベキ場合ニハ試驗的ニ本劑ヲ試ミルヲ得ベシ。

▲禁忌

重症ノ血行障害、中樞神經ノ高度ノ變質、惡臭性氣管支炎、黴毒ニ因ラザル惡液質等ヲ禁忌トス。砒素ニ對シテ著シキ特異性アルモノモ亦然リ。レツセル、ミヘーエリス、スピートホツフ等ニヨレバ糖尿病、腎臟炎及ビ結核ハ本劑ニ對スル禁忌ニアラズ。

「サルヴルサン」ノ使用後ニ視力障碍ヲ起セシ例、從來經驗セラレズト雖モ眼疾患アル者ニハ假令黴毒性ナルモ充分ナル注意ノモトニ用ヰザルベカラズ。

▲分量

靜脈內注入ニハ平均次ノ量ヲ用フ可シ。

婦人　〇、三「グラム」「サルヴルサン」

男子　〇、四「グラム」「サルヴルサン」

之レヨリ多量即チ〇、五「グラム」ヲ靜脈內ニ注入スルハ不適當ナル可シ。同量ノ靜脈注射ヲ三乃至四週ノ後反復ス可シ。過敏症狀ハ注入ヲ反覆スルモ發生セズ。衰弱セル患者或ハ神經中樞及ビ心臟ノ疾患ヲ有スル患者ハ治療ニ適スル者ニ於テモ大ニ注意ヲ要ス。或ハ少量（〇、二—〇、三「グラム」）ヲ使用スルコト安全ナル可シ。第一回ノ注射ニヨク堪ヘ得タルトキハ更ニ一兩日ヲ經テ上記ノ少量ヲ反覆シテ注射ス可シ。カヽル患者ニ對シ他ノ注射方法ヨリモ靜脈注入法ヲ當用ス可キカハ未ダ確言スル能ハズ。兎モ角モ重キ心臟疾患ハ「サルヴルサン」ノ靜脈注入ニ對シ嚴重ナル禁忌ナリトス。筋肉若クハ皮下注射ニ於テ〇、五「グラム」以下ノ少量ノ一回注射ニテハ治驗充分ナラズ爲メニ再發ヲ招クコトアリ。從來ノ經驗上强健ナル壯年ノ男子ニ向ツテハ場合ニヨリ〇、六—〇、七—〇、八—一、〇瓦ヲ用フ。婦人ニハ多クハ少シク量ヲ減ジ〇、四五—〇、五瓦ニテ足レリ。虛弱若クハ高度ニ衰弱セル患者ニハ〇、三—〇、四ヲ用ヒ、小兒ニハ〇、二—〇、三ヲ可トス。哺乳兒ニハ〇、〇二—〇、〇五—〇、一瓦ヲ以テ良果ヲ收メ得ベシ。脊髓癆ノ極メテ初期、神經及ビ血液疾患ニハ〇、三—〇、四ニテ足レリ。譯者曰ク此ノ分量ハ歐羅巴人ノ體重ニ就イテ何ヲ示セルモノナレバ體重少ナキ日本人ニハコレニ相當シテ斟酌ヲ要スベシ）

▲使用法

「サルヴルサン」ハ靜脈內、筋肉內若シクハ皮下注射ヲ行フ事ヲ得。殊ニ本劑ハ少シモ水銀及ビ沃度加里療法ト衝突セザルモノニシテ從來既ニ水銀療法ヲ加ヘタル者ニ用ヰテ差支ナク又「サルヴルサン」注射後直チニ之レヲ始ムルモ差支ナシ。多クノ經驗ニヨルニ「サルヴルサン」及ビ水銀ハ互ニ其ノ効力ヲ助長スルモノナリ。

「サルヴルサン」ノ靜脈內注入ハ最近ノ經驗ニ據ルニ他ノ注射法ニ優ルヲ以テ特ニ之レヲ推賞ス。其ノ方法ヲ正確ニ行ハヾ注射部ニ何等ノ不快ナル局部症狀ヲ生ゼズ「サルヴルサン」ノ酸性水溶液ハ靜脈內注入ニ適セズ、此ノ注射ハ必ズ「アルカリ」性液ヲ以テ行ハザル可ラズ。靜脈內注入ニ要スル「アルカリ」性液ヲ造ルニハ次ノ分量ノ「ナトロン」液ヲ要ス。

「サルヴルサン」　一五%「ナトロン」液

〇、六「グラム」　一、三〇八「グラム」約一、一四cc　約二十三滴

〇、五 同	一、〇九 同	同〇、九五同	同十	九滴
〇、四 同	〇、八七二 同	同〇、七六同	同十	六滴
〇、三 同	〇、六五四 同	同〇、五七同	同十	二滴
〇、二 同	〇、四三六 同	同〇、三八同	同八	滴

溶液調製ハ次ノ法ニ從フ可シ。

▲靜脈內(及ビ筋肉內)注射用「アルカリ」性液製法

容量三〇〇、ノ劃度セル滅菌「メスチリンデル」(共口硝子栓ヲ有シ且ツ細頸ノモノ)ニ約五十箇ノ滅菌硝子球ヲ入レ化學的純粹ナル食鹽ト滅菌蒸餾水ヨリ製シタル滅菌生理的食鹽水(〇、九%)三〇、—四〇、ccヲ加フ。是ニ於テ「サルヴルサン」〇、六ヲ投ジ强ク振盪シテ溶解セシメ更ニ此溶液ニ上表ニ從ヒ一五%「ナトロン」液二十三滴ヲ加フレバ沈澱ヲ生ズレドモ强ク振盪スレバ再ビ溶解ス。此ノ透明黃色ノ溶液ニ滅菌生理的食鹽水ヲ加ヘテ三〇〇、ccト爲ス此ノ時全ク透明ナラズンバ更ニ「ナトロン」液一二滴ヲ加フベシ。

此ノ溶液五〇、ccニハ「サルヴルサン」〇、一「グラム」ヲ含有ス故ニ一五〇、ccニハ〇、三「グラム」。二〇〇、ccニハ〇、四「グラム」二五〇、ccニハ〇、五「グラム」ヲ含有ス。

此ノ溶液ヲ靜脈內ニ注射センニハ普通ノ靜脈注入用注射器ヲ用ヰ或ハ二五〇、ccヲ入ルベキ下部細キ「ビュレット」(五〇、ccヅヽニ劃度セルモノ)ヲ用ユベシ。此ノ「ビュレット」ニハ細キ護謨管ヲ附シ其ノ下端ニ「クエッチハーン」及ビ靜脈カニューレ」ヲ挿入スベシ。今「クエッチハーン」ヲ開キテ數滴ノ溶液ヲ流出セシメ以テ護謨管內ノ空氣ヲ除キテ靜脈ニ刺入シ「ビュレット」ヲ上ゲテ溶液ノ靜脈內流入ヲ調節スベシ。

硝子球ヲ入レタル劃度「チリンデル」ヲ缺ク時ハ次ノ方法ニ據リテ滅菌小乳鉢ニテ「サルヴルサン」溶液ヲ製スルヲ得ベシ。

硝子管ノ內容(サルヴルサン〇、六「グラム」)ヲ滅菌セル小乳鉢ニ出シ滅菌セル滴下「ピペット」ニテ一五%「ナトロン」液二十三滴ヲ粉末ノ上ニ加ヘ滅菌セル小乳棒若シクハ太キ硝子棒ノ圓端ヲ以テ混和磨碎スレバ透明ナル黃色液ヲ得ベシ。コレヲ生理的食鹽水ニテ三〇〇、ccニ稀釋スベシ。

上記ノ「サルヴルサン」靜脈注入法ハ元ヨリ直チニ一般ニ適用スル能ハズ。療法ノ强弱ハ患者ノ病狀ト感染ノ模樣トニヨリテ異ニセザルベカラズ。既ニ公ニセラレタル文獻ニ徵スレバ原發性下疳并ニ殊ニ第二期黴毒ノ早期ニハ特ニ强力ナル療法ヲ要スルモノト謂フヲ得ベシ。

筋肉內注射ハ同ジク上記「アルカリ」性注射液ヲ以テ行フヲ得、但シ此際ニハ液量約六ccヲ要スルニ過ギズ。故ニ之レヲ造ルニハ〇、六「グラム」ノ「サルヴルサン」ヲ滅菌乳鉢中ニ入レ十五%「ナトロン」液二十三滴ヲ混加シテ能ク磨碎シ、次ギニ生理的食鹽水ヲ以テ所要量ニ稀釋ス、注射ハ大臀筋外上部ヲ擇ブ、針ハ深ク射シ、極メテ徐々ニ注射シ筋ノ裂傷及出血ヲ避ケザル可ラズ。座骨神經ノ近部ハ最モ注意シテ之ヲ避ク可シ。

筋肉內或ハ皮下注射ハ其ノ他猶所謂中性乳劑トシ若クハ脂肪油中(甘扁桃油「オレーフ」油、流動「パラフイン」)ニ「サルヴルサン」ヲ單ニ混和シテ用フルヿヲ得。又「サルヴルサン」ノ單純水溶液(一%)モ亦使用ニ供スルヲ得ベシ。

皮下注射ニテハ肩胛間部ニテ脊柱ニ近ク且ツ上ヨリ下ニ向ツテ注射ス可シ。其際腕ヲ後方ニ伸ベ背部ノ皮膚ヲ弛メテ容易ニ皺襞ヲ作ラシム。皮下注射ハ常ニ正シク皮下ニ注射ス可ク、少量ト雖皮膚組織中ニ注入セラルヽトキハ永ク浸潤ヲ殘スコトアルガ故ニ之レヲ注意セザル可ラズ。幼年ニシテ皮膚緊張セル者及ビ皮膚營養不良ノ者并ニ極メテ幼兒ニハ皮下注射ヲ避ケ筋肉內注射ヲ行フ。

皮下若クハ筋肉內ニ注射セラレタル藥液ハ注意シテ「マッサージ」ヲ加ヘ可成廣ク分布セシメ局部ニ微罨法ヲ施ク可シ。

注射後兩三日ハ褥中ニアリテ信頼ス可キ人ノ看護ヲ受ク可シ。

▲皮下及筋肉內注射用中性液製法

「サルヴルサン」注射液ヲ正シク造ルニハ最大ノ注意ヲ拂ハザルベカラズ、コノ溶液ノ如何ハ注射ノ無痛、治効及ビ副作用ノ有無ニ關スルモノナリ中性液ヲ造ルタメニハ次ノ材料ヲ要ス。

一、陶器製乳鉢

一、一端純圓ナル太キ硝子棒

一、局方「ナトロン」液（一五％局方「ナトロン」液一〇瓦「ピペット」一本）

一、稀釋鹽酸液滴瓶（局方稀鹽酸液「水ト等分ニ稀釋」一〇瓦）

一、青色「ラクムス」試驗紙

例ヘバ「サルヴルサン」〇、六瓦ヲ注射スルニハ次ノ如ク行フベシ

〇、六瓦ヲ陶製乳鉢ニ取リ、〇、五四瓦即チ〇、四五六cc或ハ約九—十滴ノ十五％局方「ナトロン」液（比重一、一七）ヲ加ヘテ注意シテ磨碎ス。之レヲ絕エズ磨碎シツヽ適量ナル無菌蒸溜水（約五—一〇cc）ヲ始メハ滴下シツヽ加フ。斯ノ如クシテ得タル微細ナル乳劑ヲ「ラクムス」試驗紙ヲ以テ嚴密ニ中性ナルヤヲ確ム、若シ中性ナラザレバ酸若シクハ「アルカリ」ノ一滴ヲ加ヘテ中性ニ至ラシム。

次ニ「サルヴルサン」ヲ中和スルニ要スル局方「ナトロン」液ノ量ヲ揭グ。

（サルヴルサン　一五％局方「ナトロン」液ノ左記ノ量ヲ要ス）

瓦	瓦ニテ	cc ニテ	滴數ニテ
〇、〇五	〇、〇四五	〇、〇三八	一
〇、一	〇、〇九〇	〇、〇七六	一—二
〇、二	〇、一八	〇、一五二	三—四
〇、二五	〇、二二五	〇、一九	四
〇、三	〇、二七	〇、二二八	四—五
〇、四	〇、三六	〇、三〇四	六—七
〇、五	〇、四五	〇、三八	八
〇、六	〇、五四	〇、四五六	九—十
〇、七	〇、六三	〇、五三二	十一—十二
〇、七五	〇、六七五	〇、五七	十二
〇、八	〇、七二	〇、六〇八	十二—十三
〇、九	〇、八一	〇、六八四	十四—十五
一、〇	〇、九	〇、七六	十六

乳劑製法ハ單簡ニシテ僅カニ數分ヲ要スルノミ、乳劑製造終ルヤ太キ白金注射針ヲ用ヒテ直ニ注射ス可シ。

乳劑ハ嚴重ニ無菌的ニ造リ、注射部ハ沃度偏除若クハ沃度丁幾ヲ用ヒテ消毒ス可シ。

クロ—マイエル氏ニヨレバ「サルヴルサン」ノ「パラフイン」乳劑モ亦皮下注射ニ適ス、斯クセンニハ〇、六瓦ヲ無菌流動「パラフイン」ニテ磨碎シ全量ヲ六ccト爲ス。神經質ノ患者ニハ注射前局部ニ一％「ノヴオカイン」液二ccヲ注射シテ全ク無痛トスルヲ可トス。後來ノ疼痛或ハ反應性疼痛性浸潤モ亦濕布、座動浴等用ヒ或ハ加溫ニヨリテ之ヲ輕快ニセシムルヲ得ベシト。

注射血管內ニ「サルヴルサン」ヲ用フル時ハ砒素ハ約三ヲ四日ニシテ全部體內ヨリ消失ス、反之皮下若シクハ筋肉內注射ニテハ非常ニ長時間體內ニ殘留ス故ニ二三ノ臨牀家ハ兩法ノ强力性及ビ持續性作用ヲ併用セン事ヲ企テタリ、即チ先ヅ〇、四—〇、五瓦ノ「サルヴルサン」ヲ血管內ニ注射シ、二三日後更ニ〇、三—〇、四瓦ヲ筋肉內若シクハ皮下ニ注射スルニアリ。

●梅毒ノサルヴアルサン療法ノ通覽

プロフエツソール　エ、トマスチエウスキ—述

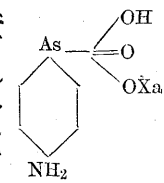
エ—ルリツヒ氏ガ偉大ノ業績ヲ擧ゲタルハ、初メ先ヅ「アトキシール」ノ組成ヲ闡明シ、五價ノ飽和砒素化合體ト、三價ノ不飽和化合體トノ差異ヲ明

カニシ、次デ此ノ成績ヲ根據トシテ、「スピロヘーテ」ニ對シテハ極メテ強大ノ滅殺作用ヲ呈シ、同時ニ人體ニ對シテハ極メテ微弱ノ毒性作用ヲ發スルガ如キ藥劑ヲ發見セント企テタルナリ。此ノ目的ヲ以テ諸種ノ研究ヲ行ヒ、其ノ結果トシテ「アルザツエチン」、「アルゼノフエニールグリチン」、「ザルヴァルサン」等ヲ順次ニ發見シタルナリ。

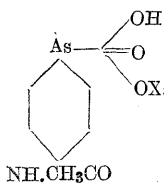
今理解ニ便ナラシメンガタメニ、此等三藥劑ノ構造式ヲ示セバ次ノ如シ。

パラ・アミド・フエニール・アルジン酸ナトリウム

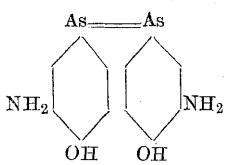
（即チ「アトキシール」）



アツエチール・アトキシール（即チ「アルザツエチン」）

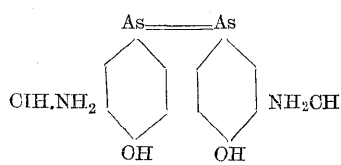


ヂオキシ・ヂアミド・アルゼノベンツオール（即チ「サルヴァルサン」）

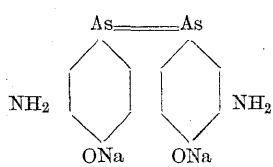


此等ノ化合體ノ抗黴毒作用ニツキテハ、秦氏ノ家兎黴毒ニ於ケル試驗アリ。其ノ成績ハ甚ダ必要ニシテ興味アル事項ヲ齎ラシタリ。即チ靜脈的注入ヲ行ヒタルトキハ、患者ノ耐エ得ル分量（T）ハ、體重一瓩ニツキテ〇・一ニシテ、迅速ナル消毒的治療量（C）ハ、〇・〇一乃至〇・一五ノ中間ニ位スト云フ。故ニ其ノ關係ハ $\frac{C}{T}=\frac{1}{10}$ ナル式ヲ以テ之ヲ表ハスコトヲ得ルナリ。此ノ藥劑ヲ初メテ人體黴毒ニ應用シタルハ、シュライベル氏、アルト氏及ビ其ノ協力者ホツペ氏等ナリ。

「サルヴァルサン」ノ「アミーン」タル性質ヨリ云ヘバ、一個ノ鹽基ナルヲ以テ、鹽酸ニ會ヒテ一種ノ鹽酸性鹽類ヲ生ズ。其ノ鹽類ハ（A）ノ如キ構成ヲナスモノナリ。



（A）



（B）

又「フエノール」トシテノ性質ヨリ見レバ、「サルヴァルサンハ」一個ノ酸ニシテ、「ナトロン」滴汁ニ遇ヒテ、一種ノ鹽類ヲ生ズ、コノモノハ（B）ノ如キ構成ヲナスモノナリ。「サルヴァルサン」ノ鹽酸鹽類（坊間ニ販賣セルハ鹽酸鹽類ナリ）ハ、熱湯ニ溶ケ易ク、其ノ〇・五乃至〇・六ハ、蒸餾水六乃至八立方仙迷ニ溶解シテ、帶緣黃色ノ透明液（酸性ナリ）ヲ生ズ。

此ノ酸性溶液ニ「ナトロン」滴汁ヲ加フルトキハ、直チニ膠樣ノ沈澱物ヲ生

ズ。然レドモ更ニ多量ノ「ナトロン」濾汁ヲ加フルトキハ全ク透明ナル黃色液（アルカリ性ナリ）ヲ生ズ。若シ四%ノ正規「ナトロン」濾汁液ヲ使用スルトキハ、此ノ「アルカリ」性溶液ヲ作ルニ、「サルヴアルサン」〇、一ニツキテ〇・七ノ「ナトロン」濾汁ヲ要スルナリ。單ニ膠樣沈澱物ガ溶解スルノ程度ニ「ナトロン」濾汁ヲ加フルトキハ、所謂溷濁「アルカリ」溶液ヲ生ズルナリ。

ウエツクゼルマン氏及ビミハエーリス氏ハ、中性油劑ヲ應用セント企テタリ。ミハエーリス氏ハ「サルヴアルサン」ヲバ蒸餾水ニ溶解シ、全然透明ナル「アルカリ」性溶液ヲ得ルマデ「ナトロン」濾汁ヲ加ヘタリ。コレニ一%ノ錯酸ヲ加ヘテ溶液ヲ中和スルニハ、〇・五%ノ「フエノールフタレイン」酒精溶液ヲ指示藥トシテ用フ（赤色ヲ呈ス）。錯酸ヲ加フルトキハ、「サルヴアルサン」ハ微細ナル黃色雲狀塊トシテ沈降ス。故ニ振動シツツ更ニ錯酸ヲ點滴スレバ遂ニ赤色ハ消失ス。

ウエツクゼルマン氏ハ、初メ「サルヴアルサン」ヲバ一乃至二立方仙迷ノ「ナトロン」濾汁（一五%）ニ溶液シ、コレニ錯酸ヲ點滴シテ微細ナル黃色泡ヲ拆出セシメ、此ノ泡沫ヲバ消毒餾水一乃至二立方仙迷ニ溶解セシメ、反應ノ如何ニ鑑ミテ、十分一ノ「ナトロン」濾汁或ハ一%ノ錯酸ヲ加ヘ、「ラクムス」紙ヲ以テ對照シツツ之ヲ中和ナリ。斯クノ如クシテ生ジタル中性油劑ニハ、中和スルトキニ生ジタルトコロノ錯酸「ナトロン」ヲ混和セルヲ以テ、遠心器ニヨリテ之ヲ沈澱セシメテ除去ス。而シテ上層ノ透明液ハ之ヲ流失セシメ、其ノ殘滓ヲ取リテ四乃至六立方仙迷ノ消毒生理的食鹽水ニ混ジテ、ココニ油劑ヲ作ルナリ。

クローマイエル氏、フオルク氏及ビ其ノ他ノ學者ハ、液狀「パラフイン、オレーフ油」、「ワゼリン油」、吳麻油、稀薄扁桃油等ニ「サルヴアルサン」ヲ溶解シタルモノヲ推稱セリ。「パラフイン」合劑、油合劑ヲ作ルニハ、「サルヴアルサン」ト油或ハ「パラフイン」トヲ乳鉢ニ入レテ、充分ニ研磨スルナリ。

分量ノ比例ハ「サルヴアルサン」〇・五乃至〇・六ニツキテ、油或ハ「パラフイン」ヲ五乃至六立方仙迷トス（油合劑、パラフイン合劑）。

最後ニハ、チトロン氏及ビペー、ムルツエル氏ハ、「サルヴアルサン」ノ酸性溶液ヲ一〇%ノ炭酸「カルシウム」ニテ乳劑トナス法ヲ推稱シ、エス、エスネル氏ハ八%ノ重曹水ヲ以テ一〇%ノ「サルヴアルサン」乳劑ヲ作ルコトヲ說ケリ。然レドモ此等ノ兩溶液ハ今日弘ク應用セラルルコトナシ。

所謂「酸性溶液」ハ之ヲ作ルコト容易ナレドモ、久時ノ保存ニ堪エザルヲ以テ、用ニ方リテ之ヲ作ラザルベカラズ。之ヲ應用スルニハ、五乃至六仙迷ノ管ヲ具ヘ、內容一〇立方仙迷ノ「レコルド」注射器（編者曰ク、恐京市神堂ニテ發賣、附屬器ト雖モ一具金九圓七十五錢）ヲ以テ、臀筋內ニ注射スルナリ。此ノ酸性溶液ヲ推稱シタルハ、單ニテーゲ及ビヂユオー兩氏ノミナリ。アルト氏及ビエーホツフマン氏ハ、此ノ溶液ハ心臟作用ニ不良ノ感作ヲ與フルモノナリトテ、コレガ應用ヲ戒メタリ。ホツフマン氏ハ酸性溶液ヲ注射シタルガタメニ、發熱性疾病ヲ起シタルコトヲ實驗シ、之ヲ證明シテ曰ク、恐ラク强キ酸性溶液ヲ注射シタルガタメニ、臀筋內ニ血栓ヲ生ジ、是ニ由リテ血栓性中心性肺炎ヲ起シ、其ノ結果トシテ肋膜炎ヲ合併シタルモノナルベシト。レツセル氏「クリーニツク」ニ於テハ、所謂後臀性發疹ヲ生ジ、是レニ甚ダ危險ナル全身症狀ヲ合併シタル患者アリキ。後ニ至リテ秦氏ハ、酸性溶液ノ吸收セラレ難キコトヲ說キテ、治療ノ目的ニハ酸性溶液ヲ使用スベカラズト揭言セリ。

所謂「アルカリ性溶液」ノ製法ハ、又甚ダ簡單ナリ。而シテ此ノ液ハ保存性ヲ有セザルヲ以テ、注射ニ方リテ每回之ヲ作ラザルベカラズ。之ヲ應用スルニハ、五乃至六仙迷長ノ注射針ヲ具フルトコロノ「レコルド」注射器（一〇立方仙迷ノ內容）ニテ、臀筋內ニ注射スルナリ。アルト氏ハ甚ダ多數ノ實驗ヲ行ヒテ、「アルカリ」性溶液ヲ推薦セリ。然レドモ今日未ダ普ク採用セラルルニ至ラズ之レ次ノ如キ事實ニ存スルモノトス。

「サルヴァアルサン」ハ初メ溶解シ難キヲ以テ、多量ノ水ト「ナトロン」濃汁トヲ要ス。而シテ注射スベキ全容積ハ、三〇乃至四〇立方仙迷ニシテ、且ツ強度「アルカリ」性ヲ呈セリ。故ニ其ノ結果トシテ、疼痛性ノ大ナル浸潤竈ヲ生ズルヲ常トス。若シ溶液ヲ改善スレバ、此ノ浸潤竈ヲ未發ニ止ムルコトヲ得ルナリ。坊間ニ販賣セラルル「サルヴァアルサン」〇・五乃至〇・六ハ、水六乃至八立方仙迷ニ溶液ス。故ニ所謂濃濃「アルカリ」性溶液ヲ作ルニハ、「ナトロン」濃汁二・五乃至三・〇ニテ事足ルナリ。此ノ溶液ハ數日間就牀セル患者ニ應用セラルルトモ、大ナル浸潤ヲ生ズルコトナク、強度ノ疼痛ヲ發スルコトナキモノトス。レツセル氏「クリーニツク」ニ於ケル實驗成績ヲ以テスレバ、今日「サルヴァアルサン」ノ應用法ノ内ニテ、此ノ方法ヲ最モ秀逸ナルモノトナスコトヲ得ルナリ。

中性乳劑ノ應用ニ企テラレタルハ、「アルカリ」性溶液ノ應用ニヨリテ、高度ノ疼痛性浸潤竈ヲ生ズルコトヲ經驗シタルニ基ヅクモノナリ。而シテ溶液ヲ完全ニ中和シテ、強キ刺戟性ヲ有スルトコロノ「アルカリ」性反應ヲ消失セシメ、又注射量ヲ小ナラシメテ、可成的疼痛ヲ減弱セントスルノ試驗行ハレタリ。此等ノ二個ノ見地ヨリシテ、ウエツクゼルマン氏ハ、中性ノ乳劑ノ應用ヲ推薦シタルナリ。ミハエーリス氏ノ用法ハ、單ニ中性溶液ヲ應用スルノ點ニ於テウエツクゼルマン氏ノ法ト同一ナリ。然レドモ兩氏トモ肩胛骨下、肩胛骨上、肩胛間部及ビ乳房下等ニ、皮下注射法ヲ推稱シタリ。此ノ中性乳劑ヲ皮下ニ注射シテハ、期待スル所ノ効果ヲ收ムルコト能ハザリキ。又眞性ニ皮下組織内ニ注射スルト云フコトハ、甚ダ巧ナル術者ト雖モ、ナホ之ヲナスコト甚ダ困難ナルナリ。而シテ注射時ノ疼痛ハ頗ル輕微ナレドモ、此ノ疼痛ハ屢々數日ニ渉リテ繼續スルコトアルモノトス。要スルニ、中性乳劑ノ應用ニハ、一定ノ前提ヲ要セシガ此ノ前提ハ遂ニ承認セラルルコト能ハザリシナリ。酸性溶液若シクハ「アルカリ」性溶液ヲ應用スル場合ニ、強度ノ反應性病竈ヲ生ズルハ、反應ノ性質ニ基因スル現象ナルコト發見セラレ、應用セラレタル所ノ藥劑其ノ物ノ罪ナルコト闡明セラレタリ。皮下注射ニ於テハ筋肉注射ニ於ケルヨリモ、吸收セラルルコト不良ナルヲ以テ、濃厚ナル溶液ヲ皮下ニ注射スルトキハ、「サルヴァアルサン」ノ組織虧損作用ハ、特ニ顯著ニ發呈スルモノトス。中性乳劑ヲ皮下ニ注射シタル場合ニアリテモ、亦總數ノ二乃至三%ハ此ノ如キ反應現象ヲ呈スルモノナリ。プラウト氏、ウエランデル氏等ニ據ルニ、注射後四週、六週、八週、十週ニ於テ、廣大ナル組織壞疽ヲ起シ、特異ノ軟化病竈ヲ生ズルコトアリト云フ。注射部ニハ先ヅ僅カニ疼痛ヲ發スルトコロノ不著明ナル波動性浸潤ヲ生ズ。又時トシテハ瘻管ヲ生ジテ少量ノ濃汁ヲ漏ラスコトアリ。此ノ部ノ皮膚ハ漸次破潰シテ大ナル壞疽病竈ヲ生ジ、其ノ底面ハ灰白色黑色ノ乾燥性組織塊トナリテ現ハレ、僅ニ疼痛ヲ發ス。時トシテハ環狀ヲ呈シ洞絲狀ノ皮膚ニテ圍マルルコトアリ。此ノ壞疽性組織ハ甚ダ微弱ノ治癒力ヲ有シ、甚ダ徐々ニ脫落シ、健康部ニ於テ切除術ヲ施スノ必要ヲ見ルコトアリ。斯ノ如キ變化ハ細菌ノ作用ニ基ヅクモノニアラズシテ、全ク「サルヴァアルサン」ノ壞疽性作用ニ基ヅクモノナリ。然レドモ、亦此ノ壞疽病竈ハ續發性ニ細菌ノ傳染ヲ受クルコトアルモノトス（マルナウス氏、エム、ナイセル氏）。反應性病變ノ輕度ナル場合ニハ、殆ンド無痛ナル硬キ小浸潤ヲ生ジ、數週、數月ニ渉リテ存在スルモノトス。加之、作用ヲ發スルコト甚ダ徐々ニシテ、佳良ノ經過ヲ取リタル場合ト雖モ、ナホ少量ノ藥劑蓄積ヲ起スモノナリ。斯ノ如クナルヲ以テ、中性劑ノ皮下注射法ハ、之ヲ排斥セザルベカラズ。之ヲ臀筋内ニ注射スル方法モ亦實用セラルベキモノニアラズ。何トナレバ此ノ乳劑ヲ作ルニハ、甚ダシキ手數ヲ要シ、又此ノ乳劑ノ濃度ニヨリテハ、大ナル壞疽性病竈ヲ生ズルコト容易ナルモノナレバナリ。

「サルヴァアルサン」ノ應用ヲシテ簡單ナラシメ、且ツ無痛性ナラシメントスルノ希望ハ、遂ニ油合劑或ハ「パラフイン」合劑ノ應用ヲ產メリ。此ノ應用

法ハモトクロ―マイエル氏及ビフオルク氏ノ考案ニ係ルモノニシテ、溶液ヲバ暗所ニ蓄藏スルトキハ、數日間ノ保存ニ堪ユルコトヲ得。然レドモ注射時ニ方リテ、每回合劑ヲ作ルヲ可トス。若シ「サルヴアルサン」ノ全量ヲ一頓ニ注射スル場合ニハ、液性「パラフイン」ヨリモ油ヲ使用スルヲ可トス。而シテ筋肉內注射ヲ行フトキハ、全ク疼痛ヲ發スルコトナキモノナリ。然レドモ通常ハ注射後數日ヲ經テ、多少疼痛ヲ發スル所ノ浸潤病竈ヲ生シ、其ノ消退甚ダ緩徐ナリ。ルツセル氏「クリ―ニツク」ニ於ケル實驗成績ニ據ルニ、此ノ効果ハ溷濁「アルカリ」溶液ニ於ケルガ如ク顯著ナルモノニアラズト云フ。クロ―マイエル氏ハ數日ノ間歇ヲ置キテハ〇・一乃至〇・二宛ヲ注射スベシト說キ、イサ―ク氏及ビフリ―ドレンデル氏ハ病變ノ消失スルマデ一週間每ニ〇・一宛ヲ注射セリ。兩氏ハ此ノ方法ヲ採用スレバ、通院治療ヲ行フコトヲ得ベシト云ヘリ。然レドモ斯ノ如ク藥劑ノ蓄積ヲ起サシメ、又數週間ニ涉リテ注射ヲ繼續スルコトハ一應ノ考慮ヲ要スルコトナリト思惟セラル。

油合劑或ハ「パラフイン」合劑ヲ應用スルニハ、「アスベスト」活栓ヲ具フルトコロノ一〇方仙迷內容ナル注射器ヲ用ヰ、一頓ニ注射ヲ行フベシ。若シ數回反復シテ注射ヲ行フ場合ニハ、一乃至二立方仙迷內容ナルプラワツツ氏注射器ヲ用ヰ、兩者ノ場合ニ於テ共ニ管ハ太クシテ五乃至六仙迷ナルヲ要ス。

「サルヴアルサン」ノ化學的構造ヲ以テ見レバ、注射セラレタル物質ノ周圍ニハ、壞疽ニ陷ルノ傾向ヲ存スルトコロノ炎症性病竈ヲ生ズルモノナリ。此ノ事實ハオルト、レ―ヘ、マルチウス等諸氏ノ檢査ニヨリテ證明セラレタル如ク、筋肉內ニ於ケルト、皮下組織內ニ於ケルト全然同一ノ關係ヲ有スルモノトス。然レドモ筋肉內注射ニ於テハ、皮下注射ニ於ケルヨリモ吸收ノ關係佳良ナルヲ以テ、此ノ病竈ハ通常胼胝ニ變化シ、膿瘍トナリテ外方ニ破潰スルガ如キコトハ極メテ稀有ナリ。其ノ他又局所ノ反應現象ハ、患者ノ性質ニヨリテ其ノ程度ヲ異ニスルモノナリ。故ニ同一ノ應用法ヲ採用スルト雖モ、各個ノ患者ニ於テハ互ニ異ナリタル現象ヲ呈スルナリ。是レニツキテハ注射部位ガ一定ノ關係ヲ有スルコト勿論ナリ。若シ坐骨神經ノ近部ニ注射ヲ行フトキハ浸潤竈形成ノタメニ、坐骨神經痛樣ノ障礙、腓腸神經分布範圍ニ於ケル刺戟症狀、麻痺症狀等ヲ發シ、又マルチウス氏ノ說キタルガ如ク、恥骨神經叢ニ於テモ亦障礙ヲ發スルコトアルモノトス。故ニ注射ハ常ニ上外四分一ノ部位ニ於テ之ヲ行ヒ、羸瘦セル患者ニアリテハ深部ニ注射ヲ行フベカラズ。

「サルヴアルサン」〇・五乃至〇・六ヲバ筋肉內ニ注射シ、殊ニ皮下注射スルトキニ、局所的反應症狀ヲ起スコトハ、非常ナル不良結果ヲ及ボスモノニシテ、此ノ事實ハ皮下注射ニ關スル問題ノ研究ニ於テ、屢々世人ノ注目ヲ引キシ所ナリ。又筋肉內注射ニ於テ筋肉浸潤ヲ生ズルコトハ、「サルヴアルサン」療法ノ反復ヲ防礙シ、又後來水銀注射療法ヲ行フニ方リテ、多大ノ障礙ヲナスモノトス。而シテ實地上ノ經驗ニ於テ、只一回ノ注射ニヨリテ、疾病ヲ全治シムルコトノ不可能ナルコト證明セラレタルヲ以テ、後來ノ注射ヲ防礙スルガ如キ現象ハ、益々世人ノ注意ヲ喚起スルニ至レリ。

右ノ理由ニ基ヅキテ、注射法ニ變化ヲ來タシ、最近ニ於テハ靜脈內注入法ヲ應用セントスルニ至レリ。而シテ此ノ應用法ノ採用セラレタルハ、單ニ其ノ效果ノ顯著ナルガタメニアラズシテ、局所的反應現象ヲ發スルコトナク、反復注射ヲ行フコト容易ニシテ、又此ノ法ト筋肉內注射トヲ兼ネ行フトキハ、其ノ效果甚ダ顯著ナルガタメナリ。

イヴエルゼン、シユライベル及ビワイントラウド等ノ諸氏ハ、靜脈內注入法ノ技術ヲ研究シ、此ノ法ヲ多數ノ材料ニツキテ實驗セリ。其ノ方法ハ今日理想的ノ完成ニ達シ、甚ダ簡單ナリト云フヲ得ザレドモ、又決シテ困難ナルモノニアラザルナリ。レツセル氏「クリ―ニツク」ニ於テハ、吾人ハワイントラウド―アスミ―氏ノ考案ニ係リルイス、ウンド、レ―ウエンスタ

イン（伯林、チーゲルストラーセ）ノ發賣セル裝置ヲ使用セリ。之ヲ使用スルニハ固ヨリ專門ノ助手ヲ要スレドモ、彼ノシュライベル氏ノ注射器ヨリモ甚ダ容易ニ使用スルヲ得ルモノナリ。此ノ裝置ハ、次ノ如キ構造ヲナス一迷ノ高サアル臺アリテ、此ノ上ニ二本ノ肘ヲ具フル支柱アリ。各二百立方仙迷內容ノ圓柱ヲ支ヘ、其ノ圓柱ハ護謨管ノ媒介ニヨリテ嘴管ト連結セラル。此ノ護謨管ニハ二道活栓ヲ具ヘ、其ノ圓錐部ニハ靜脈穿刺管ヲ箝入スルコトヲ得ルナリ。而シテ一個ノ圓柱內ニハ、攝氏四十度ノ生理的食鹽水ヲ充タシ、他ノ圓柱ニハ「サルヴァアルサン」溶液ヲ充タセリ。此ノ「サルヴァアルサン」溶液ハ、〇・四乃至〇・六ノ「サルヴァアルサン」ヲ、必要量ノ正規「ナトロン」濾汁ニテ全ク透明トナルマデ溶液シ、溫生理的食鹽水ニテ二百立方仙迷ニ稀釋シタルモノナリ。先ヅ鬱血帶ヲ裝用シテ、大ナル皮膚靜脈ヲ緊張セシメ、之ヲ穿刺シテ先ヅ少量ノ生理的食鹽水ヲ注入シ、嘴管ガ確ニ靜脈內ニ入リタルヤ否ヤヲ檢スベシ。若シ正シク靜脈內ニ穿入シタルコトヲ認メタルトキハ、二道活栓ヲ廻轉シテ、「サルヴァアルサン」液ヲ流入セシメ、最後ニ再ビ一〇乃至一五立方仙迷ノ食鹽水ヲ流入セシムベシ。此ノ方法ニ據ルトキハ、靜脈栓塞ヲ生ズルハ單ニ例外ノ場合ノミナリ。而シテ處置ニ缺クル所ナキトキハ、毫モ局所的反應ヲ發スルコトナキモノトス。從來ノ經驗ニ據ルニ、此ノ注入法ハ內臟（心臟）ノ健全ナル患者ニアリテハ、克ク堪エ得ラルルモノニシテ、又之ヲ反復スルコトヲ得ベク、筋肉內注射法ト兼ヲ行フコトヲ得ルモノトス。ヤダツソーン氏ハ多量ノ注入ヲ行フ前ニ、少量ノ試驗的注入ヲ行ヒテ「サルヴァアルサン」ニ對スル患者ノ耐性ヲ試驗スベキコトヲ唱道セリ。注入ヲ終リタルトキハ、直チニ患者ヲ就牀セシメテ、二乃至三日間安靜ニ就牀セシメザルベカラズ。何トナレバ此ノ時期ハ全身性反應ノ起ルベキ時ニシテ、又總テノ藥劑ハ安靜ヲ守ルニヨリテ、更ニ顯著ノ效果ヲ發スルモノナレバナリ。

「サルヴァアルサン」ノ副作用　筋肉內注射ニ於テハ、今日局所的副作用ヲ全ク避クルコト不可能ナリ。靜脈內注入法ニ於テハ、其技術ニ關点ナキ限リハ、毫モ局所的副作用ヲ發スルコトナキモノトス。

「サルヴァアルサン」ノ全身的副作用ハ、第一其ノ化學的構成ニ關シ、一部分ハ砒素ノ含量、應用セラレタル分量又ハ患者ノ性質等ニ關係スルモノトス。

靜脈內注入ヲ行フトキハ、通常次ノ如キ全身症狀ヲ發スルモノトス。即チ發熱、惡心、嘔吐、下痢等是レナリ。發熱ノ缺如セル場合ハ甚ダ稀有ナリ。多數ノ場合ニアリテハ、注射後一時間ヲ經過スルトキハ、患者ハ惡寒ヲ覺エ、又惡寒戰慄ヲ發スルモノアリ。次ギ體溫ノ昇騰ヲ起シ、三十八度乃至三十九度ニ達シ、稀ニハ四十度ニ至ルコトアリ。而シテ殆ンド常ニ二十四時間後ニ於テ解熱スルモノトス。此ノ發熱ハ一部分ハ靜脈內注入其ノ物ノタメニ起ルモノナリ。何トナレバ、單純ノ生理的食鹽水ヲ注入シタル場合ニアリテモ亦、同樣ノ現象ヲ見ルモノナレバナリ。其ノ他又「サルヴァアルサン」及ビ含有セラルル所ノ「アルカリ」モ一定ノ關係ヲ有スルモノナルベシ。余ハ又「スピロヘーテ」ノ滅スルコトガ少カラザル關係ヲ有スルモノナリト思惟ス。

シュライベル氏ノ說ニ據ルニ、第二回ノ靜脈內注入ニ方リテハ、屢々發熱ヲ見ザルコトアリト云フ。惡心、嘔吐及ビ下痢等ハ決シテ缺如スルモノニアラズ。然レドモ其ノ程度ハ甚ダ種々ニシテ、時トシテハ胃症狀ノ重劇ナルコトアリトス。而シテ吐瀉物內ニハ砒素ヲ含有ス。此等ノ現象ハ、之ヲ「サルヴァアルサン」ノ局所的作用ト見做スコトヲ得ルモノニシテ、其ノ程度ハワイントラウド氏ノ說キタル如ク、用量ト關係ヲ有スルモノナリ。多數ノ場合ニアリテ、患者ハ頭部昏瞶、頭痛及ビ眩暈等ヲ訴フルモノトス。皮膚ニ發疹ヲ生ズルコトハ稀有ナルモノノ如シ。之ニ反シテ所謂ヘルツクスハイメル氏反應ハ屢々强ク現ハルルモノトス。此ノ反應ハ嘗テウエランデル氏及ビヤーリッシュ氏ノ研究シタルモノニシテ、以前ニハ見ルコト能

ハザリシ所ノ皮膚發疹ガ、臨牀的ニ甚ダ顯著ニ顯ハレ、又ハ新生スルノ現象ヲ指シテ云フモノナリ。此ノ現象ノ最モ顯著ニ現ルルハ、未ダ治療ヲ受ケタルコトナキ新鮮ナル發疹、殊ニ初發全身性發疹ニシテ、通常注射後十二乃至二十四時間後ナリトス。粘膜ノ疾病及ビ內臟ノ疾病ニ於テモ亦、斯ノ如キ現象ノ起ルコトヲ知ル。水銀療法ニ於ケル經驗ニ據リテ之ヲ見ルニ、此ノ反應現象ハ、第一ニ強大ノ「スピロヘーテ」滅殺作用ヲ用スル所ノ藥劑ガ、急速ニ吸收セラルルニ基因スルモノナルベシ。

脈搏ハ注入時ニ於テハ促迫シ、屢々細小トナルコトアルモノトス。然レドモ概シテ云ヘバ、體溫ニ相當シテ昇降スルモノナリ。注射後二十四間乃至四十八時間ヲ經過スルトキハ、殆ンド總テノ患者ハ再ビ健康トナルモノナリ。

筋肉內注射及ビ皮下注射ニアリテハ、全身的副作用ハ全ク缺如セルカ、或ハ右ノモノトハ異ナリタル狀態ヲ以テ發來スルモノナリ。

體溫　注射ヲ行ヒタル日ニハ、多クハ體溫ノ變常ヲ起スコトナシ。第二日或ハ第三日ニ於テハ、三十八度或ハ三十九度ニ昇勝シ、其ノ翌日ハ又正常ニ復歸スルモノトス。極メテ高度ノ發熱ヲ起スコトハ甚ダ稀有ナレドモ、全然正常ノ體溫ヲ維持スルコトモ亦稀有ナリ。而シテ用量ノ大小、反應現象ノ輕重、體溫ノ狀態等ノ間ニハ、毫モ一定ノ關係ヲ存スルモノニアラザルナリ。先天性黴毒兒ハ、全身ニ渉リテ甚ダ多數ノ「スピロヘーテ」ヲ有スルニモ拘ラズ、概シテ高度ノ發熱ヲ起スコトナキハ、甚ダ注目スベキ事實ナリトス。

脈搏　通常脈搏ト體溫トハ相一致シテ昇降スルモノナリ。然レドモ時アリテ數日間ニ渉ル所ノ脈搏促迫ヲ起スコトアリ。而シテ脈搏緩徐ヲ起スハ、單ニ例外ノ場合ニノミ限ラル。

胃腸　惡心及ビ嘔吐ヲ起スコトハ甚ダ稀有ナリ。下痢又然リトス。若シ下痢ヲ發スルトキハ、數日ニ渉リテ繼續シ、苦痛ナル裏急後重ヲ伴ナフモノナリ。通常二三日間便祕ヲ起スヲ例トス。

泌尿器系統　ヤダツソーン氏ノ說ニ據レバ、輕度ノ蛋白尿ヲ起スコト甚ダ頻繁ナリト云フ。二三ノ稀有ナル場合ニアリテハ、極メテ急劇ナル一時的出血性腎臟炎ヲ起スコトアリ。最モ屢々實驗セラルルハ、初メ尿減少症ヲ起シ、之ニ次デ多尿症ヲ起スコト是レナリ。

膀胱障礙ハ比較的屢々實驗セラルルモノナリ。利尿困難、膀胱痙攣、一時的或ハ數日間ニ渉ル所ノ尿閉、腸管裏急後重ニ併發スル所ノ症狀等是レナリ（ポハツク、ソボトカ、ベーリング、シュレージンゲル、ポルランド及クナウエル、アイトヲル、マリノウスキー、プシュケ、フオルクーリツプシュツツ、リルレ等諸氏ニ據ル）。斯ノ如キ膀胱障礙及ビ腸障礙ノ本態ニツキテハ、今日ナホ盛ニ討究セラレツツアリ。アイトヲル氏及ビマリノウスキー氏ノ經驗ニ於テハ、「サルヴァルサン」ヲ久時空氣中ニ曝露セシメ、其ノ他ノ場合ニアリテハ之ヲ溶液トナシテ、久時空氣中ニ放置シタルモノヲ使用セリト云フ。硝子「アムプルレ」ニ於ケル罅隙モ亦固ヨリ同樣ノ關係ヲ有スルモノナリ。マルチウス氏ノ揚言シタルガ如ク、恥骨神經叢ノ壓迫症狀ヲモ考ヘザルベカラズ。腎筋肉ニ深ク注射スルトキハ、屢々此ノ壓迫現象ヲ呈スルコトアルモノトス。之ヲ要スルニ、總テノ場合ニ於テ決シテ完全ノ說明ヲ下スコト不可能ナルナリ。此等ノ事實ハ多數ノ實驗中ニ於ケル、單ニ少數ノ觀察ニ過ギザレドモ、初メポハツク氏及ビソボトカ氏ガコレニ關スル報告ヲ公ニシテ以來、醫界ハ此ノ障礙ニ注意ヲ拂フニ至レリ。而シテ此等ノ副作用ヲ伴ナヒタルモノハ、多クハ佳良ノ經過ヲ取リシナリ。

神經系統　「サルヴァルサン」ノ副作用ヲ研究スルニ方リテハ、特ニ神經系統ニ注意セザルベカラズ。何トナレバ其ノ中毒作用ハ、神經系統ニ於テハ、初メハ極メテ徐々ニ輕度ノ症狀トシテ發呈シ、遂ニ必要ナル臟器ノ官能ヲ障礙スルニ至ルモノニシテ、此ノ事實ニツキテハ、吾人ハ「アトキシール」及ビ「アルザツエチン」ニ於ケル經驗ニ仍リテ特別ノ注意ヲ拂フニ至リシモ

ノナレバナリ。

此ノ關係ニ於テハ、「サルヴァルサン」ハ今日特ニ嚴密ノ對證的觀察ノ行ハレツツアルモノニシテ、尙ホ將來ニ於テモ亦同樣ノ狀態ニ在ラザルベカラザルナリ。而シテ從來ノ臨牀的觀察及ビ經驗ハ、果シテ如何ナル成績ヲ擧ゲタルカ、今暫ク是ニツキテ述アル所アルベシ。

神經中樞系統ハ全ク健康ナルカ、或ハ單ニ限局性ノ續發性黴毒、及ビ第三期黴毒ヲ存スル場合ニアリテハ、「サルヴァルサン」ノタメニ、毫モ障礙セラルルコトナキモノトス。脊髓神經系統モ亦同樣ノ關係ヲ示スモノトス。末梢神經系統ハ毫モ「サルヴァルサン」ノ爲メニ障礙ヲ受クルコトナキモノトス。而シテ此ノ際臀筋內注射ノタメニ、坐骨神經痛樣ノ症狀ヲ呈スルコトハ、之ヲ除外例トナサザルベカラズ。此ノ坐骨神經痛樣障礙トハ、放散性疼痛（チーレル、ヘルツクスハイメル等諸氏）、輕重種々ノ腓腸神經麻痺（ウエツクゼルマン、プシコケン氏）等ヨリ成リ、二三ノ場合ニアリテハ數日間、或ハ數週間ニ繼續スルコトアルモノトス。而シテ此等ノ障礙ハ、直接注射ノタメニ起リタル所ノ炎症性現象ニ外ナラザルナリ。

諸種ノ反射ノ消失（腹壁反射、提睾筋反射、腱反射等ノ消失）スルコトハ、屢々實驗セラレタル所ニシテ、最初ニ之ヲ實驗シタルハポパツク氏及ビソポトカ氏ナリ。然レドモ此等ノ現象ハ明カニ稀有ナルモノニシテ、專ラ一時性ノモノトス。

腦神經ニツキテハ。「アトキシール」及ビ「アルザツエチン」ニ於ケル從來ノ經驗ニ據ルニ、一定ノ有機性砒素化合體ヲ應用シタルトキハ、視神經ニ障礙ヲ發スルコトヲ考ヘザルベカラズ。然レドモ今日マデノ經驗ヲ以テスレバ、「サルヴァルサン」ニ於テハ斯ノ如キ憂慮ヲ懷クノ必要ハ全然コレナキモノナリ。「サルヴァルサン」ノ應用ニ於テ視神經ノ如ク精細ノ檢査ヲ受ケタル臟器ハ、之ヲ他ニ見出スコト能ハズ。即チ注射ノ前後ニ於テ、眼及ビ眼底ヲ檢査セラレタリ。然レドモ、フインゲル氏ガ視神經萎縮ノ一例ヲ實驗シタル、未ダ何等ノ障礙ヲモ發見セラレザルナリ。此ノ實驗ハ甚ダ特異ノ價値ヲ有シ、又此ノ問題ハ甚ダ必要ナルヲ以テ、今フインゲル氏ノ報告シタル所ヲ茲ニ揭載セン。

患者ハ二十二歲ニシテ、惡性黴毒ノ爲メニ、二年來間斷ナク治療ヲ受ケツツアリ。水銀療法、沃度療法ヲ受クルノ外ニ、一千九百九年四月三十日、「アルザツエチン」ヲ注射セラレ、同年十一月十八日「エチゾリン」注射ヲ受ク。一千九百十年六月三十日ニハ、鼻及ビ咽頭ニ護膜腫ヲ生ジタルガ爲メニ入院シ、七月六日ウエツクゼルマン氏法ニ據リテ〇・四「サルヴァルサン」ヲ臀筋內ニ注射セラル。其ノ際眼底ハ全ク正常ナリキ。七月十三日ニ至リ黴毒症狀ハ著シク輕快セシヲ以テ、患者ハ退院セシガ、九月ニ至リテ再ビ鼻中隔ニ護膜腫ヲ發生セリ。而シテ十月五日、即チ注射後三ヶ月ヲ經テ視力障礙ノ訴ヲ以テ診ヲ乞ヘリ。茲ニ於テヂムメル氏ノ檢査ヲ受ケシニ、瞳孔反應緩徐、瞳孔左右不同、兩眼視野狹窄、兩眼底乳頭ハ頭顳側ニ於テ剝離ヲ起シ、明カニ兩眼ノ初期視神經萎縮症タルノ徵候ヲ呈セシナリ。

右ノ如キ不良ノ成績ヲ現ハスニハ、豫メ「アルザツエチン」及ビ「エチゾール」ヲ以テ治療ヲ行ヒタルコト、大ニ與リテ力アリシヤ明瞭ナリ。之ヲ要スルニ、〇・五乃至〇・六ノ「サルヴァルサン」ヲ二回注射シタルノミニテハ、視神經ニ臨牀的證明シ得ベキ程度ノ障礙ヲ發スルモノニアラザルコトヲ知ルベキナリ。輓近ニ至リテ更ニ重大ナル問題現ハレタリ。即チフイシエル氏ハ近來四例ノ重劇ナル丘疹性虹彩炎ヲ實驗シ、一例ニアリテハ神經脈絡膜網膜炎ガ「サルヴァルサン」注射後二乃至三ヶ月ヲ經テ再發シタルコトヲ實驗セリ。ウエツクゼルマン氏ハ虹彩炎ト脈絡膜炎トヲ實驗シ、コワレウズキー氏ハ一例ノ視神經炎ヲ見、プラシユコ氏ハ二例ノ視神經炎ヲ實驗シ、フインゲル氏ハ右眼ノ周壅性脈絡膜炎ニ中心性硝子體濁濁ヲ合併セルモノ、兩眼ノ視神經炎ニ動眼神經麻痺ヲ合併セルモノヲ實驗シ、リ

ルレ氏ハ右眼ノ重劇ナル齧皿乳頭ニ右顔面神經痲痺ヲ兼ネ、前庭神經及ビ蝸牛殼神經ノ神經炎ヲ合併セルモノ、兩眼視神經炎ニ右側顔面神經痲痺及ビ滑車神經痲痺ヲ合併セルモノ等ヲ實驗セリ。

此等ノ場合ハ多クハ初期ニ屬スルモノニシテ、明カニ黴毒ノ再發シタル結果ニ外ナラザルナリ（水銀療法或ハ「サルヴアルサン」療法ニヨリテ一時消退シタリシモノナリ）然レドモフインゲル氏及ビリルレ氏等ハ、此ノ問題ノ未ダ解決セラレザル者ナリト說ケリ。然レドモウエツクゼルマン氏以外ノ學者ハ、總テ此ノ現象ヲ甚ダ著明ナルモノトナシ、斯ノ如ク再發ノ起ルコト及ビ右ノ如キ症狀ノ發スルコトニハ、「サルヴアルサン」療法ガ少カラズ關係ヲ有スルモノナラント思惟セリ。然レドモ余ヲシテ云ハシムレバ、此ノ問題ハ今日濫リニ解決ヲ下スコトナクシテ、尙ホ將來ノ臨牀的經驗ヲ蒐集シタル後ヲニ於テ、正當ノ說明ヲ與フベキノ穩當ナルヲ主張セン。

其ノ他腦神經ニ於テモ亦、「サルヴアルサン」注射後ニ早期ノ症狀ヲ發呈セシモノアリ。即チ顔面神經、滑車神經、外旋神經、動眼神經（ウエツクゼルマン、スピートホツフ、フインゲル、リルレ及ビステルン等諸家ノ觀察ニ據ル）ニ於ケル障礙是レナリ。而シテ此等ノ現象ハ固ヨリ甚ダ稀有ニシテ、水銀療法後ニ於テモ亦、甚ダ稀トシテ初期ノ症狀ヲ呈スルコトアルモノトス。然レドモ斯ノ如キ再發ノ起ルニハ、「サルヴアルサン」療法ガ一定ノ關係ヲ有スルコトニ首肯スルコトヲ得ルナリ。カー、ステルン氏ノ說クトコロニ據ルニ、彼ノ實驗ニ於テ、眼筋痲痺ヲ發シタルコトガ、「サルヴアルサン」療法ノ結果ナリト云フハ、甚ダ疑ハシキモノナリト云フ。更ニ重要ナルハフインゲル、リルレ、ベツク、マツツエナウエル等諸氏ガ、迷路性聾聽、聾、身體平均ノ障礙、廻轉性眩暈嘔吐、眼球震盪症ノ如キ前庭神經障礙及ビ蝸牛殼神經障礙ヲ實驗シタルコトナリ、而シテ此等ノ障礙ハ皆甚ダ初期ノ症狀ニ屬シタリキ。

注射後甚ダ短小ノ時間內ニ症狀ヲ發シタルモノ四例アリ。即チ注射後三時間、一日目及ビ三日目ニ發病シ、十日至十四日ヲ經テ病狀皆消退シタルナリ。此等四例ノ內二例ニアリテハ、黴毒性皮膚發疹ハ、ヘルツクスハイメル氏反應ヲ現ハセリ。而シテ其ノ迷路障礙ハ、前庭神經及ビ蝸牛殼神經ニ於ケル臨牀上ノ潛伏性病竈ニ、右ノ如キ反應現象ノ發呈シタルニ基因スルモノトス（エールリツヒ氏、ウルバンチツチユ氏）之ヲ要スルニ水銀療法ニ於テハ甚ダ重劇ナルヘルツクスハイメル氏反應ヲ喚起スルニモ拘ラズ、從來水銀療法ニ於テ右ノ如キ障礙ヲ發呈シタルコトナキハ、甚ダ注目スベキ事實ナリ。

二例ニ於テハ、注射後四週及ビ七週半ニ於テ迷路神經ヲ發呈セリ。其ノ內一例ニアリテハ直チニ又兩眼ノ齧皿乳頭、右側顔面神經痲痺、丘疹性黴毒ヲ發シ、他ノ一例ニアリテハ兩眼視神經炎、右側顔面神經痲痺、滑車神經痲痺等ヲ發セリ。二例トモ水銀療法ニヨリテ右ノ諸症狀ヲ消失セリ。一例ニアリテハ甚ダ迅速ニ消失シ、他ノ一例ニアリテハ甚ダ緩徐ニ消失セリ。

此等二例トモ、特異ナル局所性黴毒再發ナリシヤハ明瞭ナリ。

終リニフインゲル氏ノ實驗シタル二例ノ迷路神經ニツキテ述ベン。此ノモノハ注意後九週及ビ十二週ニ於テ症狀ヲ發呈シタルモノニシテ、此ノ際ヅツセルマン氏反應ハ陰性ニシテ、續發黴毒ノ症狀ヲ缺如セリ。而シテ症狀ハ進步スルコトナカリキ。此等二例ニ於テハ、聽神經ノ中毒性症狀（「サルヴアルサン」ノタメニ）ナルコト明白ナリ。（醫事月報抄）

六百六號、使用法ノ優劣

四月六日傳染病研究所同窓會ニ於テ

秦　佐八郎

六百六號ヲ黴毒ニ使用スルニ就テハ之レガ使用法ノ改良セラルヽノ餘地アルベシ即チ之レヲ最モ都合ヨク利用スルコトヲ研究セザルベカラズ、但シ之レハ臨床家ノ領分ニ屬スルモ茲ニ今日迄ニ於ケル使用方法ニ關スル經驗

チ總括シテ一言諸君ノ參考ニ資セントス

（一）皮下及ビ筋肉内注射

六百六號ヲ皮下又ハ筋肉内ニ注射スルトキハ局處組織ノ蛋白質ヲ凝固セシメ壞疽ニ陷ラシメ周圍ニ浸潤ヲ來シ限界線ヲ劃ス其レガ爲メ藥品ノ一部分ハ長ク其内ニ殘留シ極メテ徐々ニ吸收セラル、其限界線ヲ生スル迄ノ吸收量モ一定セズ、時ニ吸收不良ニシテ膿瘍トナリ、或ハ硬結ヲ來シ甚シキハ五六ケ月殘ルコトアリ

此注射法ニ於テハ一方ニ組織ヲ害シ又藥品ノ吸收ハ個人ニヨリ著シク不同ナルヲ以テ其幾分ガ殘留スルカノ分量的關係全ク不明ナリ

殊ニ不快ナルハ藥品ガ長ク局處ニ殘留スレバ體内化學的變化ノ影響ヲ受ケテ其性質ヲ變ジ毒性トナルノ恐アリ或ハ終ニ亞砒酸ニ變ジ之レガ爲メニ著シキ砒素中毒ヲ起スコトアリ得ベシ、又實際ニ徵スルニ後ニ至リテ發疹アンギナ黃胆等ノ中毒症狀ヲ呈スルコトアリ其他神經症狀ヲ中毒トシテ記載セラルヽモノアルコトハ果メ六百六號ノ爲メナルカハ疑ハシ我日本ニ於テハ今日六百六號ノ使用ハ未ダ日淺キヲ以テ多クハ樂觀的ニ考ヘラルレトモ歐州ニ於テハ已ニ余程悲觀的ニ考フル人アリ我ガ國ニ於テモ亦タ中性エムルジョン、皮下又ハ筋肉内注射ノミニ用ヒラルヽ時ハ終ニ悲觀スルノヨアルニ至ランカ

若シ皮下及筋肉内注射ノ利點ヲ擧グレバ吸收緩徐ナルヲ以テ一度ニ大量ヲ用ヰ得ルト其効力多少持續的ナルト又手術ノ簡單ナルトニアリ然レトモ此方法ニ於テハ藥品ノ大部分ハ最初數日間ニ吸收セラレ只一小部分ノミ殘留シテ極メテ餘々ニ吸收セラル特ニ壞疽組織中ノ血管ノエンボリーヲ起ストキハ吸收極メテ少ナキヲ以テ其持續的効力ナルモノモ後ニ至リテハ極メテ弱キヲ期セザルベカラズ故ニ毎常一回ノ注射ニテ足ルトハ云ヒ難シ今日迄ノ患者ニ於テ已ニ二十%以上ニ再發アル如シ又此方法ハ溶液ノ製法甚ダ面倒ナリ

中性エムルジョンノトキハ疼痛尤モ少ケレトモ吸收不良ナリ酸性溶液ノ時ハ特ニ緩慢ナリ、强アルカリ性ノトキハ疼痛甚シケレドモ吸收力强シ、若シ弱アルカリ性ニスレバ疼痛甚シカラズシテ比較的吸收セラレ易カラン故ニモシ靜脈内ニ注射ヲ行ヒ難キ場合ニハ全ク中性ヨリハ弱アルカリ性ニシテ皮下又ハ筋肉内注射ヲ行フベシ

吸收ヲ促ス爲メニ數ケ所ニ分チテ注射ヲ試ムルモ又一ノ方法ナレトモ吸收力ニハ個人的差異アリ、吸收力弱キ人ニ數ケ所ニ分チテ注射スレバ爲メニ疼痛及硬結ノ個所ヲ增サンカ

（二）消化器内服用

消化器内ニ六百六號ヲ入ルヽトキハ大部分ハ吸收セラレズ容易ニ下痢ヲ起ス、モシ下痢ヲ起サヾルトキハ腸管内ニテ容易ニ分解シ毒性ニ變シ中毒症狀ヲ呈スベシ故ニ實地上顧ルニ足ラズ

（三）靜脈内注射

靜脈内注射ニハ種々ノ利益アリ第一分量ガ理想的ナリ即チ注射量悉ク體内ニ分配セラレ且ツ疼痛ナク且ツ排泄迅速ナルヲ以テ後ニ中毒ヲ起スコトナシ、動物試驗ニヨルニ四五日間ニ殆ント全ク排泄セラレ只其ノ痕跡ノミハ稍長ク肝臟腎臟等ニ殘レトモ斯ル微量ハ元ヨリ作用又ハ中毒ヲ起スニ足ラザル無意味ノモノナリ又溶液ノ製法簡單ニシテ使用書ニ示ス如ク必要ノ「ナトロン」液ヲ加フレバ透明淡黃色ノ液トナル、只注意スベキハ稀釋ニ用ユル生理的食鹽水ハ必ス蒸餾水ト化學的純粹ノ食鹽ヨリ製セルモノナラザル可カラズ不純ノ食鹽水ヲ以テ稀釋スルトキハ混濁スベシ、特ニ彼ノ青色瓶ノ食鹽ハ純粹ナラズシテコレヲ用ユルトキニ此ノ憂アリ若シ夫レ靜脈内注射ノ缺失點ヲ擧クレバ一見注射方法ガ面倒ナル如キモ少シク熟練セバ敢テ困難ナラズ又排泄迅速ナル爲メ効力持續セバ、故ニ二期三期ノ黴毒ニテ深在ノ病竈ニハ作用ヲ及ボスナク從テ反覆注入ノ必要アルベシ又充分ノ量ヲ一時ニ吸收セラルヽ故第一期中毒症狀著明ナリ例ヘバ惡寒、戰慄、熱發、

嘔吐、下痢等ガ注射當日又ハ翌日位ニ起ルコトアリ時ニ虛脫ニ陷ルアリ故ニ豫メカンフル、ブランデー等ノ用意モ必要アルベシ此虛脫ハ藥品ノ直接中毒ヨリモ寧ロ患者ノ精神的感動ニヨリテ來ル之ヲ防クニハ特ニ婦人或ハ神經質ノ人ニアリテハ手術室ヨリモ病室ニ於テシ又患者ノ位置ハ必ズ橫臥ニ於テスル等ノ注意ヲ要シ溶液ノ濃度ハ中毒ニ大關係アリ、餘リ濃厚ナレバ中毒特ニ心臟障害甚シク動物試驗ニ於テハシヨツクヲ起スアリ人間ニテモ四十倍ノ酸性溶液ヲ用ヰテ致死セシメタル一例アリ餘リ濃厚ナレバアルカリ性ニテモ不可ナリ、三百倍ニテモ尙ホ熱發、嘔吐、下痢等甚シク起ル、故ニ少クトモ五百倍以上ナルヲ要ス、余ハ今日尙ホ八百倍乃至一千倍ノ液ヲ用ユ而シテ未ダ中毒症狀ヲ起セシモノニ遭遇セズ日本人ニハ〇、四—〇、三五ガ適量ナリ故ニ一千倍液ノ四百乃至三百五十ccヲ十分—十五分間ニ注射スルガ適當ナリ（未完）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

內地雜報

●醫師の分布

過般開會されし地方長官會議に於て、醫師の分布問題に就き諮詢せられしが、最近內務省に於て調査せし所によれば、各地方の人口對醫師數の統計は左の如くなる由。

府縣別	人口	醫師數	人口一萬に對する醫師一人	醫師一人に對する人口
東京	二、六〇三、三〇〇	三、三九一	一三、〇五	七六六
京都	一、〇六二、八〇〇	二、〇三七	九、七六	一、〇一一
大阪	一、八四五、三〇〇	一、三五七	七、三五	一、三六〇
神奈川	一、〇八〇、九〇〇	七一一	六、五三	一、五二〇
兵庫	一、八四八、三〇〇	一、一六六	六、三一	一、五八五
長崎	一、〇五四、八〇〇	九一三	八、六六	一、一五五
新潟	一、七五二、六〇〇	一、一〇八	六、三二	一、五八二
埼玉	一、二四三、九〇〇	六三六	五、一一	一、九五六
群馬	九一五、三〇〇	四六三	五、〇六	一、九七七
千葉	一、三一四、三〇〇	八三八	六、三八	一、五六八
茨城	一、二〇二、一〇〇	六七七	五、六三	一、七三六
栃木	九三七、五〇〇	五四九	五、八六	一、七〇八
奈良	五五六、九〇〇	三三三	五、九八	一、六七二
三重	一、〇四六、一〇〇	七四一	七、九八	一、四一二
愛知	一、七五〇、六〇〇	一、三二六	七、五七	一、三二〇
靜岡	一、三二五、〇〇〇	七七四	五、八四	一、七一二
山梨	五四九、三〇〇	三一二	五、六八	一、七六〇
滋賀	七〇三、九〇〇	四四四	六、三一	一、五八五
岐阜	一、〇二三、七〇〇	六六六	六、五一	一、五四一
長野	一、三六九、三〇〇	八三三	六、〇八	一、六四四
宮城	九二〇、三〇〇	七一四	五、七六	一、二八九
福島	一、一八六、四〇〇	六六二	五、五八	一、七九二
岩手	七五七、五〇〇	三九二	四、一七	一、九三二
青森	六八七、一〇〇	二八二	四、一〇	二、四三七
山形	九〇一、九〇〇	六〇〇	六、六五	一、五〇三

秋田	八六五、二〇〇	四二〇	四・八五	二、〇六〇
福井	六三一、一〇〇	四一五	六・五八	一、五二一
石川	七五五、六〇〇	七五〇	九・九三	一、〇〇七
富山	七六七、三〇〇	五九九	七・八一	一、二八一
鳥取	四三四、〇〇〇	三五八	六・三五	一、二一二
島根	七二七、四〇〇	六八四	九・三九	一、〇六五
岡山	一、一八一、一〇〇	八二四	六・九八	一、四三三
廣島	一、五〇二、九〇〇	一、三三七	八・九九	一、一二四
山口	一、〇一三、四〇〇	九二八	九・一七	一、〇九一
和歌山	六九八、八〇〇	四三一	六・二五	一、六二五
德島	七〇三、二〇〇	四〇九	五・六九	一、七五八
香川	七〇〇、五〇〇	三七七	五・三八	一、八五八
愛媛	一、〇三一、八〇〇	六三八	六・一八	一、六一七
高知	六四三、二〇〇	六二〇	九・六四	一、〇三七
福岡	一、六一九、六〇〇	一、五六八	九・六八	一、〇三三
大分	八五〇、五〇〇	七五二	八・八四	一、一三一
佐賀	六六二、四〇〇	六三六	九・六〇	一、〇四二
熊本	一、二〇四、四〇〇	一、〇八九	八・五四	一、一〇六
宮崎	五二二、九〇〇	四一〇	七・八四	一、二七五
鹿兒島	一、二二八、六〇〇	一、〇二八	八・三六	一、一九五
沖繩	四八五、一〇〇	一四三	二・九五	三、三九二
北海道	一、二二三、九〇〇	八三一	六・七九	一、四七三
合計	四九、〇九二、〇〇〇	一六九	七・三七	一、三五七

醫師の過不足問題は且く措き、單に分布の上より見れば、醫師分布の最密ふるは東京府にして、人口一萬に對し一三・〇五の比例を示せり。最疎ふるは沖繩縣にして人口一萬に對し二・九五の醫師あるのみ。人口一萬に對して幾何の醫師あらば最も適當ふるかは他に種々の關係もあれば今暴かに斷定を下し難きが、地方によりては縣下全體に醫師の不足を感じ居れるものもあれば、又縣廳所在の市町は然らざるも、郡村に於ては不足を感じ居れるもありといふ。現に青森、岩手の二縣の如きは、醫師の不足を感ずる事甚しく、止むふく縣より補助金を與へて醫師の開業を奬勵しつゝあるふり。されば前表の上に於て人口一萬に對し五・〇以上の醫師を有する地方と雖ども、其内の或郡村に於ては矢張り醫師不足を告げ居るもの蓋し少からざるべし。即ち醫師數は全縣として不足ふきも分布の宜きを得ざる爲めに或郡村には醫師のふきに窮し居れるものあるべし。當局者は斯る地方に於ては成可く地方廳より補助を與へ分布を適當ふらしむべしとの意見ふるが、從來四五の府縣にて之を實行せし實例に徵するに、府縣よりの補助額は一ヶ年僅々二三百圓に止れるを以つて、優良の醫師を得難きのみか、會々開業せし醫師も僻遠の地の事とて平生患者の僅少ふるのみか其收入も多からざるより、久しからずして廢業するもの比々皆ふ然らざるはふき有樣ふり。如斯んば到底醫師分布を適當ふらしむべくもあらず、若し眞に醫師分布を適當ふらしめんとせば、宜しく十分の補助を與へ醫師をして寒村僻地にも久しく留り得る方法を採らざる可からざる次第ふるが、此問題は昨今に初めて起りし事にはあらず、既に數年前より研究され、識者の夙く既に醫師を適當に分布せしむる方法に就て攻究する所ありし次第ふれども、而かも今日に至りて尙ほ良策を發見し得ざる所なり。之に關し嘗ては市町村醫設置の議が、中央衛生會員等によりて唱說せられし事ありしが、若し市町村醫設置が實行せられば此上もふき事ふれども、而かも醫師一人を市町村醫とし任命せんには一ヶ年少くとも六七百圓、多ければ千五六百圓を要す、若し此れより以下の俸給にては到底優良の醫師を得可くもあらず、然るに如斯多額の經費は、今日の町村の經濟狀態よりせば到底負擔し能はぬ所ふるべく、之が實行せられざるは一に此の經費の點にあるなり、され

ば市町村醫の設置は且く理想として存置し其實行は遠き將來に俟たざる可らず、而かも其れ迄に何等か醫師分布を適當からしむる方法を講ぜずんば、一國衛生上特に傳染病豫防上に大差障を來すべきを以つて、當局者も此點に就き苦心し居れるふりといふ。然れども醫師稀少の地に補助を與へて開業せしむといふも、其補助が多額ふるにせよ尙以つて良醫師を得べしとは言ひ難かるべし。蓋し醫師は高等の教育を受けたるもの、從つて趣味多き都會生活を好み、仙人的の山林生活を欲せず、報酬が得られ生活の出來るのみにては寒村の開業は決して久しく堪ゆ可からざるべし。非常に多額の補助あらば、年限を定めて出稼的に應招するものあらんも、如斯は相互の不利ふり。補助以外に或種の待遇、或は唯官吏的待遇を與ふる如き方法に出でずんば、決して良好の成績を得ざるべきかと云ふ。（醫海時報抄）

◉鑛泉調査の方針

內務省は議會の建議に基き、一昨年來鑛泉調査をば如何に調査すべきか、即ち其調査方法の方針に就き、衞生局にて調査中ありしが、其一部の方針は既に決定して昨年來地方廳に移牒して着手せしめつゝありしも、全體に亘る大方針は此程漸く決定せられたり。其方針及方法の大綱目は左の如くにして不取敢、林春雄、横手千代之助、丹波敬三、田原良純、池口慶三、北島多一、內野仙一、野田防疫課長、塚本參事官、安東防疫事務官、等を調査委員に囑托し遂て委員に任命する由。

調査を大別して、（一）豫察調査（二）指定調査に分ち先づ全國總ての鑛泉浴場保養場に就て、地方廳をして豫察調査を行はしめ其の結果に由り必要ある鑛泉浴場及保養場にのみ、若くは必要ある事項に對してのみ指定調査を行ふ事とせり而して豫察調査の事項は（イ）所在地名（ロ）地理及地勢の概略（ハ）交通の便否（ニ）鑛泉浴場に於ては其泉名泉質溫度涌出量等（ホ）宿舍の數（ヘ）最近一ヶ年間の客數（ト）鑛泉浴場又は保養場としての設備等にして此豫察をなす標準は鑛泉浴場保養場を一級地二級地三級地に區別し、此の區別により豫察調査事項なも異にする事としたり、而して一級地とは（一）地理及地勢上に於て都市若くは物資交通の便ある繁盛の地に接近し附邊に名勝地又は遊覽地あり、特に保養場に於ては其地展開し又海水浴保養場に於ては附邊に河口無く、避暑保養場に於ては海拔の高さ適當にして（二）交通成るべく便利にして（三）鑛泉は沐浴するに加溫の要ふく涌出量一泉少なくも二百石以上にして（四）宿舍は快く宿泊し得べき適當の數が其地又は附近にありて（五）浴客又は保養客が鑛泉浴場に於ては一ヶ年一萬人以上、保養場に於ては二千人以上あり且つ（六）設備として普通設備を缺かず且土地開業醫あり又は將來益々發達の見込あるものにして、右の各項中二以上を缺くものは一級地と認めず、次に二級地は（一）地理及地勢上市街地を距る遠からず（二）交通不便ならず（三）鑛泉の冷泉にあらずして、涌出量一泉百石以上にして（四）適當數の宿舍あり（五）浴客又は保養客は鑛泉場は一ヶ年三千人以上保養場は五百人以上あるもの（六）設備も普通にして且つ、將來發達の見込あるものとし、此以下のものを總て三級地と認め斯く區別して一級地に於ては、（第一部）沿革及地理調査（第二部）地質及土性調査（第三部）氣象調査（第四部）鑛泉又は海水の理化學的調査（第五部）人口動態調査（第六部）浴業及設備調査（第七部）特殊の調査を調査せしむる事とし、之が調査上の方法を左の如く定めたり。

沿革及地理に關する材料は地方廳をして指定したる鑛泉浴場又は保養場に就て左の事項を調査せしめ之を蒐集すること。

（イ）其地及附近に於ける歷史上著明の事實（ロ）鑛泉浴場又は保養場開始の年月及其由來（ハ）其沿革（ニ）其鑛泉の効用に關する口碑又は傳說

（ホ）從來專門家の實驗報告（ヘ）其他及附近の地勢及地形其海拔（ト）山

岳、丘陵、河川、潮海等の關係並に附近に於ける森林の有無又其廣袤樹種等の概略(チ)交通の關係、道路の善惡、及難易、里程及賃金の概略(リ)其地に於ける市廛の概略(ヌ)其地及附近に於ける名所及舊蹟の概略

地質及土性に關する材料は農商務省地質調査所の調査に基き蒐集す。

氣象に關する材料は左の順序に依り蒐集す。

(イ)指定せられたる鑛泉浴場、又は保養場は、其地の氣象觀測に要する器械器具を購入し、觀測に要する適當の設備を爲すと(ロ)觀測開始前適當の時期に於て其觀測事務に任ずべき者を東京に參集せしめ、約二週日間中央氣象臺に於て器械器具の取扱方及其他の觀測に必要なる事項の傳習を受けしむると(ハ)指定せられたる鑛泉浴場又は保養物は明治四十四年一月一日以降引續き左の各種の觀測を爲すと

(A)氣壓(B)氣溫(C)氣濕(D)風力及風向(E)降水量(F)日照時間

(二)鑛泉浴場又は保養場に於て觀測し得たる自記紙は每週之を所屬測候所に送致すると(ホ)測候所は右の自記紙に依り適當の氣象表を調製し之を調査會又は衛生局に報告の事

鑛泉の理化學的性質に關する材料は左の順序に依り蒐集す

(イ)鑛泉に對し調査すべき事項即ち、種類(常涌泉及間涌歇泉の別)湧出量溫度、比重、化學的成分(特に物理化學の理論に基き調査す)(ロ)一級地及二級地の鑛泉並に三級地の著明なる炭酸泉、硫黃泉鐵泉は中央廳の吏員を其涌出地に派して種類涌出量溫度比重を調査し、其氣斯量を定量し採酌せしむると(ハ)以前の諸泉は地方廳にて調査し中央廳に送致すると(二)分析は總て中央廳に於て定量分析又は定性分析を行ふ。

海水の理化學的性質に關する材料は左の順序により蒐集す

(イ)海水に對し調査すべき事項は(一)海岸及海底の構成(二)深さ(三)溫度比重(四)動搖、干潟、潮流、波濤及波浪(五)海水の成(分ロ)一級地の海水は中央廳の派遣員に於て採酌し其他の海水は地方廳に於て採酌し中央廳に送致すると分析は總て中央廳に於て之を行ふも、其他の項は地方中學理科教師に托すると

指定せられたる鑛泉、浴場、又は保養場所在市町村の人口動態は其調査を內閣統計局に委托し左の材料を蒐集す。

(イ)婚姻數及離婚數、(ロ)出生數、之を生產死產に分ち更に嫡出子、庶子、私生子に別つ(ハ)死產數、死亡原因別と爲し更に之を年令別及月別と爲す又人口の動態は總て其市町村の在籍者と非在籍者とに分ち調査すると

浴業及設備に關する材料は指定せられたる鑛泉浴場又は保養場をして左の事項を調査し地方廳を經て調査會又は衛生局に報告せしめて蒐集す

(イ)其他に關する市町村の現住戶數現住人口、男女別及本籍人口(男女別)(ロ)宿舍の數其客用室數及宿泊せしめ得べき人員の最大數重なる宿舍の狀況(ハ)特に病者の宿泊に供すべき保養院の數、其病室數、及宿泊せしめ得べき病者の最大數、其院の狀況(二)宿泊料及入院料各等級別一日の料金、特殊の宿泊方法(ホ)鑛泉浴場に於ては浴場(宿舍に設けたる浴槽を包含す)の數其中公泉浴場數其狀況(ヘ)海水浴場に於ては浴泳區域の廣袤及其狀況(ト)浴場に於ける一般設備の概略、特に保養又は治療の目的に設けたる電氣浴、水浴、光線浴、蒸氣浴、マッサジ、整形ギムナスチック、吸入室等の設けあらば其概略(チ)浴料又は保養料保養入浴の爲めに支拂ふべき一日又は一回の料金並に特殊の保養又は治療設備に對する一日又は一回の料金(リ)鑛泉の內服に干する規定即ち內服量及其料金等(ヌ)浴室の數保養入浴の爲め來泊せる浴客の員數及其の滯留延日數各月別(ル)專任浴場醫の氏名(ヲ)其地に開業せる醫師の住所氏名特に專門科ある者は其科名を記す)若し其地

に開業醫師無き時は最近開業醫師の住所氏名(ワ)病院各院の所在名稱公私立の別病床の數專任治療醫の氏名(カ)藥局を開設せる藥劑師の氏名及藥種商の數若し其地に藥劑師又は藥種商ふきときは最近に藥局を開設せる藥劑師の住所氏名又は最近の藥種商所在地名(ヨ)市町村立傳染病院又は隔離病舍の所在地名及其設備の概略(タ)飲料水(其水道水、鑛井水、井水、泉水、河水等の別、若し是等の數種併用せらるゝ時は其種別に依る宿舍及保養院の戶數(レ)排水、汚物掃除に關する設備及其狀況(ソ)食料品就中牛乳、獸肉類、魚類、野菜類等供給の狀況(ツ)公園又は之に準ずべきものゝ有無、其廣袤狀況(ヲ)劇場、寄席及其他の娛樂的設備の有無及狀況、公娼及藝妓の有無、員數及狀況(ナ)其地及附近に鑛業場の有無あらば名稱及距離(ラ)其地及附近に於ける工場の狀況(ム)鑛泉浴場又は保養場が其浴場等の改善又設備の爲めに行ひたる事業一斑之に投じたる一ヶ年の費額(ウ)其屬する市町村の歲入及歲出額市町村債の有無、其額。且つ右の中(ヌ)(ム)(ウ)の三項を除くの他は年末現在數又は年末の事實狀態を調査するも。調査の第一年に於ては(イ)より(ウ)に至る各事項を調査し第二年以後は(イ)(ヌ)(ム)(ウ)の四項を除くの他は其前年に比し異動ありたるものゝみを調査のこと

右の如くにして特殊の調査は鑛泉浴場又は保養場に於ける空氣の檢査（塵埃量、細菌數オゾン量等）鑛泉のラヂオアクチビテート觀測等とし、必要ある地に對し之に堪能ふる委員又は吏員を派して行はしめ二級地に於ける指定調査は右一級地指定調査事項中の第三部第五部第七部を除きたる各項とし、三級地に於ける指定調査は、鑛泉及海水の理化學性質幷に豫察調査後變動をきたしたると認むる事項に限り鑛泉の効用及各鑛泉浴場又は保養場の適應症等は上記諸般の材料を參酌し當該主査委員に於て立案し蒐集したる材料は各主査委員に於て分擔調査し委員會の議を經て之を協定するこゝし立案協定したる材料を以て日本鑛泉浴場及保養場法を編纂して之を横文に飜譯し四十九年十二月末日迄に全部脫稿印刷濟とおさしむる由右邦文及横文の鑛泉浴場及保養場法の出版は明治五十年一二月中までに全部終了せしむるものとす。（醫海時報抄）

◉第十二回北陸醫會

同會は去廿一日富山市に於て開會せられたり。會場は富山市は舊城內ふる縣議事堂にして、門前に綠門を設け、玄關に金屏風を立て其前に松、桐、山吹を大花瓶に活けしを据ゑたり、此處に役員は一々來會者に接し、來賓を右側に會員を左側に導きたり。會員の休憩室には三共商店友田商店の商品を陳列せるあり。軈て午前九時十五分導かれて式場に入る。式場は中央に女柳と杜若を生けし古銅水盤を飾り、演壇の右側を會長席とし、左右には四十餘題の演題を貼出したり。會長杉邨廉氏が開會の辭をなすべく演壇に上りし時は、來會者僅かに二十餘名のみ頗る心細く感ぜしめたるが、而かも會長は音吐朗々左の如く開會の辭を述べたり。

本日茲に第十二回北陸醫會を開くに際し遠隔の地方より態々御來會下されしは余等當事者一同の感謝に堪へざる所ふり余等不肖を顧みず本年は當地に開會の責任を負ひし已來種々準備に苦慮せしも何等施設の見るべきものふく僅かに開會の運びに立ち至りたる處演說又は出席の申込意外に多數ふりしは誠に余等の光榮とする所ふり云々

次に濱田當縣知事の代理として永井事務官左の祝辭を代讀す。

本日を卜し北陸三縣聯合醫會を當地に於て開催し會務の改善を審議すると共に最新有益ふる學說實驗を紹介せらるゝの機を得たるは本官の欣喜措く能はざる所なり惟ふに人文の發達國運の進展に伴ひ醫事衞生の研究施設益々其多きを加ふるは今更言を俟たず聯合醫會は茲に見るあり盡瘁

多年會を重ぬる事今や既に第十二回に及ぶ其斯界に貢獻する所蓋し亦大ふりと謂ふべし望むらくは會員諸氏熱誠事に膺り以て有終の美を收めん事を一言以て祝辭とす

次に井上市長の祝辭ありて直ちに演說に移り、高岡市の長谷川德之氏の『死後三ヶ月の胎兒を腹壁切開により摘出せし治驗』を先頭に續々演說ありて鬼頭英君迄九氏の演說了りし時恰かも正午となり一時休憩せり、此時來會者既に百餘名に達し居たりき。

休憩中には連合各縣の委員會を開き、豫て石川縣より提出せられし、規則改正案を議し、二三修正の上左の如く可決せり。

第一條　本會を『北陸醫會』と稱す

第二條　本會は北陸地方の醫師を以て組織す

第三條　本會は學術及醫事の發達を謀るを以て目的とす

第四條　本會は每年一回北陸各縣內に於て交番に之を開くものとす

第五條　各縣に常務委員五名を置き本會に關する重要の件を議定す

第六條　本會は開會地に於て每回會長副會長及準備委員長を設く

第七條　會長は會務を總理し副會長は會長を補佐し準備委員長は開會に關する一般の事務を處理す

第八條　會長副會長及準備委員長は前會長の指名とし常務委員は會長之を指名し其任期は四ヶ年とす

斯くて次回開會地を石川縣とし、會長に高安右人副會長に山碕幹、準備委員長に山田謙次の諸氏を擧げ又た各縣の常務委員は會長より左の如く指名せり。

福井縣　△宇加治丹吉△吉村庄次△高桑文雄△長野桃太郎△北川健三

石川縣　△米村吉太郎△加藤慶三△鹿江佐六△小林文泰△武內養安

富山縣　△米村菊次郎△淺山豐太郎△野島茄三郎△飛見丈繁△堀米次郎

午後一時再開會、豫定の演說を續けたるが、午後は來會者更に增加し百六十餘名の多數に達したり演說申込者は、六十余名の多數ありしかど、豫定時間即ち午後四時三十分迄に演了せられしは其の半數即ち二十二題に過ぎず、殘りしものは皆ゐ會誌に讓る事とし、副會長岡本重保氏より諸件の報告をゐし、杉村會長簡單に閉會を宣して目出度く散會したるは午後五時前ゐりき。

散會後富山ホテルに於て懇親會を催しり。杉邨會長は來賓に對して一場の挨拶をゐし餘興として煙火、イルミネーション、流火、盆景、浪花節、小原節、富山藝妓の手踊等あり、酒間永井事務官來賓を代表し一場の祝辭を述べ、各縣出席者代表者として高安右人氏の謝辭あり、斯くて十二分の歡を盡し九時散會したり。尙ほ當日の演說者は六十餘名ゐりしも演了者は左の如し。

一頓挫性肺炎二三の例　沖　玄　仙君

一簡易ゐる消毒法に就て　谷　龍　藏君

一直腸狹窄に施せる手術の一例　齋藤賢德君

一喉頭乳嘴腫に就て及其治驗　加納景成君

一涙線腫に生じたる肉腫性癌　佐竹秀一君

一定期性四肢痲痺　福田美明君

一傳染病の經路不明のものに就て二三の小話　大崎從舜君

一中毒狀態の皮膚斑に就て　岡部喜三君

一死後三ヶ月の胎兒を腹壁切開に依り摘出したる治驗　長谷川德之君

一硫酸銅棒の殺菌力に就て　舘　保二君

一「トラホーム」に就て　藤井升義君

一ヒルシュスプルング氏病實見　近江外次郎君

一興味ある側枝血行を有する肝硬變に就て（標本供覽）　齋藤邦二君

一結核性腹膜炎の治療に就て　長谷川　淳明君
一出血性肉腫に就て　飯森益太郎君
一獨逸に於ける「トラホーム」分布狀態　田上清貞君
一直達鏡應用に就て及之により生命を救ひたる最近の二例　增田　穰君
一アヂソン氏病に就て　山碕幹君
一血壓測定　松原三郎君
一粟粒結核の一例に就て　原　撲平君
一惡性脉絡膜上皮種に就て　鬼頭英君
一角膜全葡萄腫の手術に就て　高安右人君
一施療に關する醫師の立場　山田謙次君
一剝脫性皮膚炎に就て　山田孝太郎君
一「フリクテン」の黴菌的及其他統計的檢査に就て　横堀龍男君
一「ソクスレート」に就て　大月豐君
左の諸氏は時間の都合により演說せざりき。
一「エソトロメラルギー」の一例　長久開一郎君
一富山市立各小學校「トラホーム」調査狀況　城石健治君
一古代醫師法　窪美昌保君
一コホ、ウ井ノフス氏菌に因する傳染性の一種の邊緣
「フリクーテン」に就て　横堀龍男君
一「エムピエーム」に就て　赤祖父廉三君
一上顎竇「ポリープ」に就て　林喜久松君
一結核療法に就て　米村吉太郎君
一乳兒期に於ける所謂脾疳に就て　岡本京太郎君
一多發性神經炎　石譯太作君

一未定　藤井外次郎君
一刺き眼の療法に就て　石坂直次郎君
一「コロールホルム」痲醉の小計　鷲山謙吉君
一前置胎盤の療法　藤本敏君
一牛痘（犢体の接種）の組織的研究　澤崎寛制君
一直腸脫の手術式に就て　杉邨廉君
一近時地方に流行せる腸窒扶斯に就て　野島茄三郎君
一外陰部癌にて　重田稔君
一精神病の治療　松原三郎君
一牛痘、種痘及痘瘡の組織的變化の比較　澤崎寛制君
一「ヘルニヤ」箱頓に因する小腸壞死の標本供覽　齋藤賢德君
一膀胱內異物の一例　杉邨廉君
一慢性子宮內膜炎に罹れる子宮粘膜の週期的變化並に「プラスマ」細胞の價値に就て　藤本敏君
一重篤なる梅毒性子宮實質炎患者に六〇六號を注射したる實驗　仝　人
一稀有なる眼瞼の梅毒性潰瘍の一例　城石健治君
一稀有なる眼瞼脂肪腫の一例　仝　人
一細糸狀角膜炎の一例　舘保二君
一高安氏撰定「トラホーム」手術器械供覽　仝　人
一自案の器械供覽　石坂直次郎君
一紫外光線の人体に及ぼす影響　田上清貞君
附丁抹國コツペンハーゲン市に於ける「フインゼン」光線療法研究所の概況　仝　人
一前房內壓側定器及一二の標示　赤祖父廉三君
一化膿性耳下腺炎に就て

一小兒に於ける無痛性急性穿孔性中耳炎の數例　長澤安弘君
一喉頭膿瘍の治驗一例　仝　人
一六〇六號注射後の後發反應に就て　近郷重孝君
一自家考案の尿道洗滌受水器の供覽　仝　人
一哺乳兒の出血性紫斑病に就て　高田範國君
一奇異ふる症候を有せる小兒「ヒステリー」の一例　仝　人

壯丁のトラホーム

四十三年徴兵檢査の際に於ける壯丁のトラホーム數左の如し、約四十萬人の壯丁に對して約九萬人のトラホームあり誠に夥しき數と云ふべし

所管	檢査人名	患者數
第一師團	五四九六七	一〇〇四四
第二師團	二八一八四	八四四九
第三師團	二四三七九	七〇〇四
第四師團	二四六一六	五三三三
第五師團	二〇七五二	一九六九
第六師團	二四三五五	五三七九
第七師團	一六四三六	二四三五
第八師團	二〇二五五	六一六四
第九師團	一七四六九	一七一三
第十師團	一九九七七	四一五九
第十一師團	一九四九八	二五四四
第十二師團	一九九〇二	五八〇一
第十三師團	二五六一五	四五七二
第十四師團	三三八〇九	八八七二
第十五師團	二一五一五	三七四五
第十六師團	二〇〇五五	五一八四
第十七師團	一七九〇九	三九九五
第十八師團	二一七三一	七一八九
臺灣	六七四	一七八
樺太	三一八	五七
朝鮮	一七八九	二九一
關東	七五六	八三
清國	四一五	五
合計	四三五〇〇〇	九六八八五

本年度の各地衛生費

四十四年に於ける各道府縣衛生費合計は經常部百六十萬三千四百十五圓、臨時部百四萬九千三百一圓にして總計二百六十五萬二千七百十六圓ふり。之を昨四十三年度に比較するに、經常部に於て四萬千四百二十七圓、臨時部九萬二千五百三十八圓、合計十三萬三千九百六十五圓を增加し居れり。

盲人衛生事業從事者

内務省の調査する所によるに、本邦の盲人は六萬九千百六十七人にして、此内衛生的事業に從事せるもの按摩二萬千五百四十五人針術四千二百二十三人灸術七百十七人即ち二萬五千四百餘名ふりと。

富山赤十字支部病院落成

同院は一昨年來新築工事中ふりしが、去月末イヨ〳〵落成し、去る五日總裁閑院宮及同妃兩殿下の臺臨を仰ぎ、盛大ふる落成式擧行せり。同院は其敷地一萬五千坪餘、建築坪數約一千五百坪、總費額約二十萬圓を投じたるふりと、收容數は、百二十名の豫

定（病室二棟未成）にて組織は、內科、外科、眼科、婦產科の四科に區別し職員の重なるものは院長兼外科醫長杉邨廉、內科醫長澤崎寬制、眼科醫長橫堀龍男、婦產科醫長藤本敏氏等にして皆東京醫科大學の出身なりと。

●表彰されし衛生功勞者

▲鈴木秀英氏（石川縣）　氏は石川縣羽咋郡末森村字今濱の開業醫なり安政五年生、明治十九年內務省醫術開業試驗に及第し、爾來東京に於て幾多の研究を積み、後ち歸鄉して同地に開業したるなり。

元來鈴木氏の家は今濱地方に於ける舊家にして、世々醫を業とし地方の名望淺からす、其の公共に盡したる事業としては、明治二十七八年戰役の後、氏が郡醫師會頭たりし際に於て、同會の事業として約五萬の郡民に强制種痘を施し、以て天然痘の流行を防止し賞勳局より金盃一個を下賜せられたる事あり、又た羽咋郡會議員として、在任中氏の意見に依り、郡內に於ける傳染病の防遏に資する目的を以て皆郡費の補助を與へて四名の傳染病研究生を出すの決議をなし又た大日本私立衛生會に於て、衛生事務講習會を開かるゝや同じく氏の主唱に依り、郡主任書記を之に列せしめ又た二十八九年の頃、時の大日本私立衛生會長長與專齋氏の和倉に來遊するや、氏は之を羽咋町に招じ、衛生會支會を創立したるが、是れ實に縣下に於ける郡衛生會の嚆矢に屬す、其他に二十三、四年の頃、羽咋郡宿小川兩役場內に於ける村民八百餘名に、無料種痘を施し、更に六ケ年間無報酬にて、郡內產婆の講習を擔任し、三十七八年頃には郡長、警察署長の依囑に依り、郡內に於ける佝僂病患者の無料治療に從事し、又近頃は氏の居村たる今濱に、傳染病隔離病舍を建築するに際し、村民等は何れも其傳染病舍たるの故を以て、敷地の供給を拒みたるに拘はらず、氏は進んで自已住家內敷地を割きて之に供し、無報酬を以て今日に至るまで之を供給しつゝある外、日本赤十字社を設立せられたる際には、同社の協贊員として非常の困難を冒して社員の募集に努め、多大の効果を收め、赤十字社より銀盃を贈與られたる事あり、更に郡內飲料水の改良に就ては、羽咋郡衛生會顧として、一回は個人として上田計二氏等と協同して又一回即ち前後二回全郡の井水を檢査し、之が改良に資したる事尠少からず、尙ほ貧困患者の施療種痘の無料施術を始め、二十七八年戰役に際し、恤兵部への獻金、廿九年縣下手取川大洪水被害民に對する義捐金等の爲め、金、銀、木盃を政府及び地方官より下賜せられたるの數は、殆んど枚擧に遑あらずと衛生上の功勞者として他に卒先し其第一回の表彰に與りたるは、蓋し所以ありと言はざるべからず。

●各醫學會總會概況

●第八回內科醫學會總會

四月一、二、三の三日間、東京法科大學第三十番教室內にて開催されたり、初日にありては午前八時定刻に達するや、聽衆未だ堂に滿たざるも、會長佐藤佐氏起つて開會の辭を述べ、次で幹事山田鐵藏博士の會務報告あり、幹事細野順氏會計報告を爲し、終りに本會員中死亡者十三名に對して滿場起立して弔意を表するや茲に演說は始まり、熱心ある演者の態度と眞摯ある聽者の拍手とを以てさすがに眞面目ある學究者の會合たるを偲ばしめ、午前中は十氏の講演は終りて、正午休憩、午後一時半再開午後六時黃昏に及びて十六名の演說を了し得たり、聽衆凡そ二百名內科學會として其數決して多からざるも眞面目ある會員を有して徒らに騷擾論難をして能事にせざるは、實に內科學會の特色たらずんばあらず、演說中會長は立ちて役員改選、次回開會地選定の件に就きて滿場に謀るや、細野幹事の動議によりて會長の指名に一任し、會長之れを容れて左の如く決定せり

次會會長　醫學博士　青山胤通君

次會開會地　東京

此夜午後七時より、理科大學講堂にて「レントゲンの放散に就て」の題下に鶴田理學博士の特別講演あり、約四時間に渉りての講演に、博士の巧妙ふる實驗説明と、奇拔ふる諧謔とは滿堂の聽者をして時の移るを忘れしめ、而して博士が現時は實に理學會の大革命期にありて、今やニュートンの大定則は其根底より搖き始めんとし、化學者の所謂原素ふるものはやがて、眞の原子たるに非ざるに至る可しとの所論を進むるや、聽衆は何づれも俗界を離れて遠く幽邃にして高尚ふる學理界に逍遙するの美感に打たれざるもの無かりき終りて山田博士は會員を代表して深く謝辭を述べたり聞く此回の特別講演は、實に本會先輩諸氏は熱心ふる斡旋によりて成立ちしものふることを、實地のみに走りて理論に怠るもの多き今日、醫學に關係あるX光線の如き、而かも之れを專門家によりて其原理の講示を請くは甚だ當を得たるもの、希くば毎回這類の開演を當事先輩者に望むものふり

第二日　午前、午後に及びて十七名の演者あり、中、注目を惹けるは二木博士の「腹式呼吸に就て」の示説と、日本食品中に於ける賜蛩扶斯菌の生存期限の演説とにして、殊に其後者にありて、日本食品中「タクワン」は實に最も優秀ふる消毒力を有し、而して千二百年以前澤庵和尚によりて初めて世に告げたる「タクワン」漬が國力日々に進みつゝある今日の日本に於て益々其需用を進めつゝあるは、吾等日本人として共に萬歳を呼ばざるを得ずと結びたるは大喝采ふりき

宿題「パラフス」に於ける宮本博士の講演は、全學會の注意を惹きたるが爲め聽衆堂に溢れ、博士の明快ふる頭腦より割り出されし明確にして秩序整然たる論理は、今日紛々たる討究論難の中心に立てる「パラチフス」病につきて、瞭然たる判斷を與へ、聽者をして少しも述ぶ所無からしめたり

第三日　殊に最終の演者として立ちたる、佐多博士の「結核血清の抗體量」の演説は多大の注意に値す可きものにして、獨逸殊にコッホ門下一派の如き、結核血清は以後と雖も全然結核療法に對しては絶望たる可く、望みは一に「ワクシン」療法即ち「ツベルクリン」の改良如何にあるのみと唱ふる今日、一に泰西學者と共に佐多博士が企てたる結核血清療法は、實に本邦醫史上「ツベルクリン」の改良に熱心研究を重ねつゝある北里博士一派と相對して、大壯觀たらずんばあらず、正午に及びて全く演説を終り、會長によりて閉會を宣せられたり

懇親會は外科學會と合併の上此夕築地精養軒に開かれたり

◎日本消化機病學會臨時總會

四月四日午前八時半より東京法科大學三十番教室に於て臨時總會を開き、會長代理北村學士登壇開會を告げ且つ前會長故長與博士の爲に追悼の詞を述べ、一同起立の上弔意を表されたり、それより細野幹事の會計報告、赤松幹事の庶務報告あり、議事に移り會長補缺選擧を行はんとせしが細野幹事の發議にて明年總會まで北村學士をして會長代理を乞はんとの説に一同賛成、直に演説に移る午後林博士の特別講演「內分泌に就て」は呼聲高く聽衆堂に滿ち三百有餘名に達せり、尋て遠山博士の脚氣原因研究及米糠中に於ける新發見銀皮酸の演説ありたるを以て、一旦席を離れんとしたる聽衆も再び復席して耳を傾く、同博士の演説終るや三浦博士(守治)、林博士、島園學士等の辯難攻擊ありて時ふらぬ活氣を呈したりき、夫より數番の演了の後閉會を告げ日本橋區龜島町偕樂園にて懇親會を開かれたり

同會は前年イツモ會場の寂寞を感じたりしが、今回の盛況を呈したるは全く、北村會長代理及幹事諸氏が苦辛盡力せられたるの結果たるを信ず

◎第十四回日本神經學會總會

四月四日午前八時より東京法科大學第三十二番教室に於て開會せり、聽衆百餘名ふり、吳博士開會の辭を述べられ、吳博士及稻田博士座長席に着かれ、石川學士の演説に始まる、宿題痲痺性癡呆の報告演説は三宅博士にて

約一時間以上に渡り最も有益ふる演說をせられたり、事故ありて今村博士の來京ふかりしは頗る遺憾ふりき、該報告終りて休憩す

午後一時より再び開會す、吳傳士役員改選、次回開會地及宿題を會員に諮らる

次回開會地　福岡

次回宿題　脊髓癆

千日氏庶務會計報告をなされ、會員中死亡せる十數名に對し滿場起立して弔意を表せり、午後座長席に著かれたるは、澤田、森安、松原の諸博士の「早發性癡呆の本態」にて演說始まる同問題は精神病學界の最も興味多きものにして多くの討論あり今村博士代として片倉學士遠く京都より來會せられ、「麻痺性癡呆其他二三疾病の腦脊髓液檢査」に就き精細ふる研究を報告せらる、之に對し中村學士の精神病學教室に於ける實驗を追加せらる、黴毒性神經系疾患竝に麻痺性癡呆に對する六〇六號の效果に就きては森安、山田兩博士の報告あり、吉村博士の麻痺性癡呆の「ヌクレイン」酸療法、和田氏（大阪）の「大腦皮質に於ける粟粒硬變に就き」精神病教室の齊藤（玉）、黑澤、池田の諸學士の麻痺性癡呆に關する各種の研究等あり、吳博士の「麻痺性癡呆の證狀に就き」なる演說にて終り、三浦博士は閉會辭に代へて歐米旅行談をされたり、午後六時過散會せり、散會後山上御殿にて懇親會を開く、來會者數十名にして快談湧き、散會せるは八時頃ふり

●日本小兒科學會十六回總會

陽春の四月櫻花都門を塡むる第一日午前九時、日本小兒科學會第十六回總會を東京醫科大學東講堂に於て開催す、庶務會計等の報告了りて後、弘田博士立ちて開會の辭を述べ、且小兒科學會會則に二三修正を加ふる件を提議せられ、小兒科地方會所在地の地方幹事は地方會之を推薦するの件と及來年度の本部役員改正の期に際し、同時に地方役員改選の件確定す、議事了りて演說に移る

揚出せられたる演題凡て三十四、演說者併せて三十名也、之より先き東講堂に集まり來る傍聽者絡繹として絶ゑず、正午に及び大講堂殆ど既に立錐の地なく、參列者の總數略二百數十名を算す、實に小兒科學會總會開催以來の盛況にして、此內地方より此學會に參列せるもの六十三名ふり

演說の詳細は學會欄に讓るも演了せるもの十九題薄暮に垂んとして未だ多數の演題を殘す、會頭弘田博士立ちて遠路參會の勞を謝して閉會を告ぐ、時に午後五時四十分ふり

午後六時より小兒科總會參列者中の有志懇親會を日本橋偕樂園に開催す、出席者八十二名、懇談涌くが如く頗る盛會を極む、赤羽武次郎氏弘田博士の挨拶あり、席上弘田會頭の發議により明年度總會の土地撰定の議あり、地方會員の希望も重に名古屋にあるが如く、即ち明春の總會は先づ名古屋と決定す

次で卓上演說、唐澤光德氏より始まり白杵、河野、檜木、岡本諸氏之に亞ぐ、卓勵風發各人皆互に胸襟を開きて相語り相論じ、散會せしは、午後十時半ふり

●第十二回日本外科學會總會

四月一日、法科大學第三十二番教室に於て開催せられ、會場の整理、開會時間演說十五分、討論五分等極めて嚴にして、開會定刻已に會するもの三百八十を超ゆ、時間を節約して庶務會計報告は掲示によりて會員に知らしめ、開會定刻に至るや芳賀會長は簡單ふる開會の辭を述べ、次に順次演題者を指し、著々として第一日の豫定演題を了へたるは、午後五時ふりき

第二日　四月二日午前八時より開會したり、來會者極めて多數にして大講堂も滿員の盛況を呈しぬ、演說討論時間嚴守、著々として演者相踵ぎて壇上に起ち、午後五時第二日豫定演題悉く演了したり

第三日　四月三日、さしもの廣き大講堂も立錐の地ふく、會員傍聽者毒とつめかけ會場頗る活況を呈しぬ、午後宿題報告あり、上野學士の局所麻痺、

中山ドクトルの全身麻醉に於ける一般方法を精細なる報告あり、次に麻醉に關する諸報告あり、討論又多數にして甲論、乙駁、伊勢の森博士の如き例により猛然として壇上に起ち、火花を散らす樣聽衆の眼をひきたり

午後五時三日間演說（九十二）悉く演了し、芳賀會長再び壇上に起ち本會の盛況實に歐米の學會を凌駕するの活況あるを喜び猶會員努力研究して益々學會の降盛を期せしめんことを唱へられ、閉會の辭に代へられたり、次に芳賀會長の發聲にて外科學會の萬歲を、三輪德寬氏は會員を代表して會長役員に謝意を表し、併せて同氏の發聲にて會長の萬歲を唱へ五時十五分散會し、午後六時築地精養軒にて懇親會ありたり、次回會長、開會地、宿題、宿題擔當者は左の通り決定せり

會長　醫學博士　本多忠夫君
開會地　東京
宿題　膽石症
宿題擔當者　醫學博士　三宅速君

◉大日本耳鼻喉科學會

四月二、三日の兩日、東京醫科大學法醫學教室に於て開會、第一日は午前十時開會、會頭岡田博士の開會の辭及幹事の庶務會計の報告あり、次に岡田會頭死亡會員を報告し、一同起立の上弔意を表し、夫より演說に移り、午前中八題、午後十五題を演了して閉會を告げ、夫より日本橋檜物町藏多屋に於て評議員會に兼て懇親會を儀されたり、第二日は午前九時開會、會頭岡田博士評議員會に於ける決議事項として、次年度の開會地及宿題を報告せられたり

開會地　東京
宿題　上氣道結核

夫より演說に移り十一題を了し、午後二時再開、宿題腺樣增殖症に關する演說に對し討論沸騰のため時間切迫、豫定の如く演了し能はずして午後六時閉會、兩日とも來會者は他に比して寂寞の感ありたり

◉日本皮膚科學會第十一回總會

四月四、五の兩日、東京醫科大學東講堂に開會、四日午前八時岡村博士開會の辭を述べ幹事井上學士會計を報告し會長には遠山學士の發議にて前會長土肥博士を推し幹事評議員は會長の指命とし次回開會地は京都と豫定し次回宿題としては一、皮膚色素異常二、泌尿器結核三、黴毒の治療及再發を撰定し直ちに宿題演說に移れり演者非常に多數ふればとて演說十分、討論二分「デモンストラチオン」三分を勵行し時間來れば下壇する迄電鈴を鳴らし到底下壇せざるべからざるの止むを得ざるに至らしむるおと聽者の爲めには不足ふきにあらずと雖も又止むを得ざりしふるべし、同時夕には「エピヂアスコープ」（實物幻燈）を用ひ岡村、朝倉兩博士中野、渡邊、大越學士等親切に是れを說明し其他皮膚科病室研究室には同科所有の圖譜、蠟製模型を陳列一般參會者に供覽せるおど中々親切を極めたれば會員外入場を謝絕するの盛況を呈せること他會には恰んど見ること能はざるほどなりき、五日は二時迄に演說を終り三時より築地精養軒にて一大懇親會を開き筑前琵琶、東京俳優學校生徒、試演等の餘興あり來賓山根正次氏を初めとし來會者無慮百五十名中々の盛會ふりき

◉日本眼科學會第十五回總會

四月二、三の兩日、東京齒科大學眼科教室に於て開會、第一日は午前九時開會、此時已に會員二百名の出席あり斯くて會頭河本博士壇上に起て開會の辭を述べ、直に演說に移り、豫定の演說を終ふ、第二日も、來會者前日に同じくして午後五時散會、夫より上野精養軒に於て懇親會を開かれたり

◉日本婦人科學會

四月二、三の兩日、東京醫科大學東講堂に於て第八回總會を開く、第一日午前九時、會頭濱田博士開會を宣し、橋爪幹事の會計及事務の報告ありて後明年度の開會地に就き協議の結果、京都市に決定し、尋て濱田博士は會

頭辭任の意を述べられしも、木下、吾妻兩博士の懇望により留任を諾せられ、夫より演說に移る、此日演了せるもの二十一題、中に就きて唐木ドクトルの「慢性子宮內膜炎に於ける爪甲皺襞の診斷的價値に就て」は聽衆の頭を解き、吾妻博士の「前屈前傾は果して子宮の尋常位置なるや」の演說に對しては濱田、木下兩博士の反駁出でたり、大阪の緒方博士あらしめば更に一層の活劇を觀せたるなるべきに惜きことしてけりふどゝ話合へる會員もありたり、午後散會上野精養軒に於て懇親會を催せり

第二日午前九時開會、二十三題演了、午後五時會長代理木下博士閉會の辭を述べ、更に同博士發聲の下に一同日本婦人科學會萬歲を三唱して散會せり

兩日とも參會者二百名と注せられぬ

●第十二回傳染病研究所同窓會

四月五日、六日の兩日、赤坂溜池三會堂に於て開會

第一日午前九時開會、北里博士は滿洲に於ける萬國疫病會議に列席中なるを以て、副會頭醫學博士北島多一氏代りて開會を宣し、次て幹事細野順氏前年度庶務會計の報告あり、次て豫定の講演に移り、最後の特別講演「化學力と生活現象」（理學博士池田菊苗君）は約一時間半に涉り多大の興味を以て歡迎せられ喝采場裡に午後五時演了、散會

第二日午前九時開會、醫學博士志賀潔氏會長席に著き、開會を宣して直に講演に移り、午後一時北島博士會長席に著き、故淺川博士記念奬學金授賞論文の報告あり、此選に入りたるは小林晴次郎氏の寄生動物學上重要なる業績にして特に我日本に於ける重要地方病たる肝臟ヂストマの宿主魚類及其幼蟲發育に關する研究に對して右記念金牌及金百圓を贈與せられ、夫より講演に移り、最後に秦氏は六〇六號使用法に關して實地上の注意を述べられ午後五時散會

兩日共參會者三百有餘名例年の活氣に倍して討論百出、大學講堂に開催せる各醫學會と相對して一方の雄を示せり

第二日午後六時より芝公園紅葉館に於て懇親會を開く、會するもの二百有餘名と註せられぬ、北島副會頭は次年度の幹事は研究所にて梅野、肥田の兩氏、會員にては芝、赤坂、麻布三區の委員に委託せられたり

●第十三回日本衞生會

四月六日午前九時より東京醫科大學衞生學教室にて開會、先づ會頭醫學博士緒方正規氏開會を宣し、次て幹事醫學博士横手千代之助氏事務及役員改選の報告をなし、次て豫報の演說に移る、參會者六七十名なるも多くは專門家にして講演聽講共に熱心の情面に溢るゝの士のみなりしは東京醫學會と好對の感ありたり

開會後山ノ上集會所に於て懇親會を開かる、來賓には醫學博士大澤謙二氏、同中濱東一郎氏を始として參會者百名に及盛會なりき

●第一回日本病理學會總會

昨年大阪に於ける醫學會開催當時、以前より本邦各地の病理學會を總括して日本病理學會と爲し、以て泰西の病理學界に對抗せんとの議は遂に病理學者のみならず以外の諸大家の贊同を得て本會の創立を見るに至りたるものなるが、茲に其第一回總會は東京醫科大學病理學教室講堂に於て開かるゝことゝなりぬ、來り會するもの東京にては三宅秀、三浦守治兩博士を始め、今博士、土屋博士、長與學士、川村學士、京都の速水博士、角田學士、中村學士、大阪の佐多博士、岡山の桂田博士、福岡の中山博士等にして殊に三浦守治博士が終始會員席に在りて熱心に演說を聽取し、時に起ちて討論に參加せるは大に會員の感興を惹きたり、先づ第一日（四月五日）午前九時に及ぶや會長山極博士病氣不在なるを以て副會長桂田博士代りて會長席に就きて開會を宣し、次て幹事長與學士庶務會計報告を爲し、終りて直ちに演說に入り宿題たる日本住血吸蟲病に就て桂田博士は寄生蟲學方面より、藤浪博士に代りて中村學士は病理學方面より、土屋博士は臨牀的に何

れも詳細ふる研究結果報告をふせり、斯くして本病に關する學理は日一日開發闡明の域に進みつゝあるを認むると雖も、病原體卵子として人體外に排出せられてより再び人體に寄生するに至る徑路殊に其發育順序に至りては今尚不明に屬し、今日の研究は主に此方面にのみ灑がれつゝあるの觀あり、來る可き明年の本會はそも如何ふる結果を齎すに至るが、多大の期待に値す可きを思ふ、午後諸種の方面に渉りての研究結果の報告演說ありて午後七時其全部を演了するに至らずして閉會し、第二日(四月六日)午前九時劈頭三浦守治博士を本會名譽會長に推薦するの議を決し、次て會員の投票によりて決せられし左の諸件を報告す

一、會長　山極博士(重任)
二、副會長　桂田博士(重任)
三、次會開會地　東京
四、次回の宿題　脚氣

次ぎに演說は始まれり、演じ來り演じ去り、討論に討論十五分の熱心ふる演講は午前の中に全部終了されたり、中にも注目を引きたるは川村學士が獨逸留學中アショッフの教室にありて研究せる人體、及動物體内に於ける脂肪類に就きての實驗結果報告は實に化學病理ふる一新地域に其歩を進めたるものと謂ふ可く、爾來彼地の記載抄錄に就きてのみ倣ふに過ぎざりし我が病理學界に對しては暗夜の光明にも比較す可きものなり

同夜癌研究會と聯合して上野精養軒にて懇親會を開く、本會が創立を告げて其筥一回ふるが爲めに各學會を代表して來り會せる諸大家を網羅し、合して二百餘名に及べる盛會ふりき

●癌研究會學術集談會(病理學會と合併)

四月六日午後一時より始まり、本會副會頭本多博士座長席に就き午後六時に及ぶ迄十二名の演說を了せり、中にも討議中心ふりたるは志賀博士の日本種鼠癌腫と英國鼠癌との移植試驗の比較研究につきての演說にして、嘗つて本多博士により分與されし英國種鼠癌につきては諸家等しく熱心ふる研究を續けつゝある事實を示したり

●第二十四回東京醫學會總會

四月五日午前十時より東京醫科大學生理學講堂に於て開會、會頭醫學博士三浦謹之助氏開會を宣し、次に副會頭醫學博士近藤次繁氏會務を報告し且今回評議員會の決議に依る醫學研究奬勵案を發表せり、即東京醫學會雜誌に登載せる論文中評議員會にて詮考の結果優等の論文と認めたるもの、著者に對し奬勵金を贈與することゝせり、昨年度に於て其選に入れる諸氏左の如し

一、尾關才吉(本邦人ノ甲狀腺形態學)
一、大黑安三郎氏(佐賀縣下ニ於テ地方病トシテ存在スルワイル氏病ニ就テ
一、中山平次郎氏(宿主ノ組織内ニ於ケル日本住血吸蟲卵子ノ發育)
一、赤岩八郎氏(陳舊性膿氣胸ニ對スル胸廓切除ノ經過)
一、澤崎寛制氏(痘瘡ノ組織的研究)

尋て近藤博士は前年度の死亡會員を報して一同起立の上弔意を表し、次て幹事醫學博士隈川宗雄氏の會計報告、同醫學博士大澤岳太郎氏の役員改選及編輯報告ありて左の演說に移る

一、帝國陸軍ノ給養ニ就テ　醫學士　稲葉良太郎君
一、「ヂギタリス」葉有效成分ノ生理的檢定法ニ就テ　醫學士　三野安三郎君
一、色彩陰性運動遺像知見補遺
大阪高等醫學校生理學教室學生　武井武男君
一、日本人常尿ノ「クリオスコピー」　醫學士　木下東作君
一、胃腸ニ於ケル脂肪ノ消化及脂肪消化ノ「レチチーン」ニヨル影響　臺北醫院　醫學士　臼杵才化君

一、牛皮消根（いけま）ノ有毒成分「チナンコ、トキシーン」ノ實驗的研究附南陸ノ成分ト稱セラル・「フェトラゾコ、トキシーン」存在ノ疑義ニ就テ　醫學士　岩川克輝君

一、隈川須藤氏脂肪定量法補遺　醫學士　渡邊隣二君

一、急性局所貧血性痲痺ニ於ケル神經、筋肉及皮膚ノ病理解剖補遺　醫學士　青柳登一君

一、併用痲醉ノ「デモンストラチオン」醫學博士　林春雄君

午後五時開會、來會者五十に足らざりしと雖ども悉く博士學士のみなりしは他に比して異彩を放ちたるの感あり、閉會後山ノ上集會所に懇親會を開かれたり

●日本齒科醫學會定期總會

同窓會は日本齒科醫學會大會を兼ねて去る八、九の兩日開催せられたり、第一日（八日）は午後〇時三十分より京橋區築地精養軒樓上に開催し、先づ伊澤會長開會の辭を述べ、次に門石理事の庶務報告、水野理事の會計報告あり、猶ほ同學會將來の方針に關して協議し、役員改選は委任協議の結果會長に伊澤信平氏、副會長に高橋直太郎氏、理事に門石、水野、澁谷、三輪海老原の諸氏當選し、次で午後二時より演說に移り、奥村、綿引、花澤、早川、原田諸氏順次演了し之に對する討論ありて閉會し、一同入口に整列して記念撮影をなし、役員諸氏は別室に協議會を開き、終て懇親會に移り同七時食堂を開き、卓上、伊澤會長の挨拶に對し、榎本積一氏の謝辭ありし且同氏の發聲にて一同伊澤會長及び齒科醫學會の萬歲を三唱し、次に弊社の藤根氏謝辭に併せて同學會に對する希望を述べ其他猶ほ二三の祝辭あり、又宴の前後には能狂言、日本手品、大神樂等の餘興ありて九時散會したるが、學會竝に宴會共に在京及び地方會員を合して二百數十名の出席者あり、頗る盛況なりき

引續き翌九日神田三崎町なる東京齒科醫學專門學校内に於て其第二日を開き、午前九時より十數題の學術演說をなし午後二時よりは更に幾多の「デモンストレーション」ありて薄暮全く閉會し、猶ほ同夜在京有志會員は各地方より來會せし人々を偕樂園に招き盛宴を張れり

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

外國雜報

●獨逸醫科大學々生數　獨逸諸大學に於て一九一〇年より一九一一年に亘る冬期學期中の在學生を一九一〇年の夏期在學生に比較列擧せば左の如し

大學	一九一〇年夏期學期 獨逸人	獨逸人 外國人	合計	獨逸人	獨逸人 外國人	合計	內譯 婦人	內譯 齒科	內譯 獸醫
伯林	八〇八	五七八	一三八六	一一三〇	七三四	一八六四	一五九	二三四	—
ボン	四四五	五〇	四九五	三八九	六三	四五二	三〇	四八	—
ブレスラウ	三四四	五二	三九六	三八一	五七	四三八	一九	一〇六	—
エルランゲン	一六五	九〇	一二五五	二一〇	八一	二九一	一五	四	—
フライブルグ	九二	七八六	八七八	一二六	六〇六	七三二	五〇	三六	—
ギイセン	一三五	二三二	三六七	九〇	一一九	二〇九	一七	七	一四一
ゲツチンゲン	二〇七	七三	二八〇	一八六	六二	二四八	一〇	二三	—
グライフスワルド	二三三	三五	二五八	一八七	二五	二二二	二	三	—

ハルレ	一〇二	二六	三一七	一九八	二一〇	三〇八	七	三九	—
(ハイデルベルグ)	二三	五二	六四五	二二七	三八二	五〇九	五二	七四	—
エーナ	四九	三〇〇	三四九	五〇	二五五	三〇五	一一	一五	—
キール	四〇四	一八七	五八二	三二四	八八	四二二	一三	四一	—
(ケエニグスベルグ)	二二四	一二七	三五一	二二八	一六〇	三八八	一三	三二	—
ライプチツヒ	二八〇	三二八	六一八	三〇五	四五三	七五八	?	二二五	—
マールブルグ	三一四	八二	三九六	二七一	五七	三二八	六	五一	—
民顯	六〇四	二三〇四	一九〇八	六九四	一四三五	二二一九	五九	一五三	—
ミユンステル	一九七	一八	二一五	一四七	一五	一六二	四	三二	—
ロストツク	三九	一八八	二二七	五四	一八六	二四〇	二	三八	—
(ストラスブルグ)	一五二	一九九	三五一	一五〇	一六八	三一八	七	四三	—
チユビンゲン	一七九	一八〇	三五九	一八一	一五三	三三三	一二	一七	—
ウルツブルグ	二三一	二六一	四九三	二六四	二六六	五三〇	八	一四	—
總計			一一二五			一一五六	四九六	二六二	一四一

Elements of Physics.

一植物學大意

Elements of Botany.

一製藥學

Pharmacognosy.

一定性分析化學

Qualitative analytical Chemistry.

一定量分析化學大意

Elements of Quantitative analytical Chemistry.

一調劑術

Practical pharmaceutical Preparations and Prescriptions.

一毒物學初步

Elementary Toxicology.

一顯微鏡用法

Ability to use the Microscope.

受驗資格

一年齡滿二十一歳以上にし品行方正なる者

一二箇年以上或場所に於て製藥調劑に從事し又は藥品の卸賣を爲し且つ相當と認めらるべき藥學專門學校を卒業したる者若くは前記學校を卒業せざるも四箇年以上製藥調劑に從事し又は藥品の卸賣を爲したる者

試驗期日

毎年一、七両月第一火曜日よりマニラ市に於て試驗を開始す志願者は其前三十日間内に試驗委員會へ願書提出のこと

試驗手數料

フイリピン貨二十ペソ(約我金二十圓に當る)

◉マニラの本邦藥劑師試驗に關する件

マニラ駐在領事代理副領事杉村恒造氏より去月二十五日附を以て左の通り外務省へ報告ありたり

本邦藥劑師はマニラに於て無試驗にて藥劑師たる免狀を受くるを得ず成規の試驗を受くるの必要あり其科目竝に受驗資格等左の如し

試驗科目 (用語は英語若くは西語とす)

一普通化學有機、無機共

General Chemistry, Organic and inorganic.

一物理學大意

醫校雜報

●醫專校長會議の結果

官立各醫學專門校長會議は、去四月十八日より文部省に開會せられしが、當局者より提出せし諮詢及協議事項及文部大臣の訓示等は既に前號に報道せし所の如くにして會議の結果は左の如くなりと云ふ

一、卒業試驗分割の件

卒業試驗を二回に分割し、即ち基礎醫學は第二學年の終りに試驗し、臨床科は四學年の終りに試驗せんとの件は一昨年來の懸案なりしが、之に關しては各校長間の贊否の論交々起り。贊成論者は、近來は學問の進歩と共に、學科の數も多く、且は近き將來に醫化學科も增設され、尙語學の力も今一層充分ならしむる必要あるのみか、修身科の如きも一層意を致さざる可からずして、往年に比して學生の負擔は陪加せるを以つて、其試驗の如きも之を二分して行はずんば學生をして其能力を過勞せしむ、故に分割して行ふを利とすといふに在り、又反對論者は、元來基礎醫學なるものは一旦之を修得し而して臨床醫學の學修に入るに及び更らに其知識の必要を感ずるものにして、此兩者は常に相離る可からざるものなり。故に理論上基礎學科と臨床科とを同時に試驗するも學生の負擔を重からしむる理なきのみか、若し分割する時は、學生臨床科に入るに及び速くも基礎醫學の溫習を怠るに至り、爲に臨床科の學修も粗略となるの恐れあり、故に分割は弊害あつて利益なしといふ意見にして、此贊否兩意見は同數なりしかば遂ひに折衷說出でゝ

精神、法醫、皮膚、耳鼻、及將來實施の醫化學科等の試驗は其學年の終りに於て行ひ、同試驗を以つて卒業試驗に代ゆる事を得

といふ、ツマリ各校長の任意とする說出でゝ、校長側にては之を決定し、文部大臣に答申したれば、何れ文部省にて詮議の上にて何等かの決定を與ふべし。

二、月謝値上問題

現在の月謝三十圓を値上げせんとの件にして、是亦數年來の宿題なるが、大學及高等學校も夫々値上げに決せし今日、値上げをなすには異論なきも幾許の値上げをなすか、其額に就ては種々議論ありたり、即ち公私立醫學校に於ては六十五圓乃至百五圓迄の授業料其他を徵し居れるが、官立の學校が斯く迄値上げするも面白からず、さらば高等學校と同樣に三十五圓にせんかの議ありしも、高等學校は多くの學用材料費を得ざるに、醫學校は多くの材料費用を要するが故に、彼と是と同一には論じ難き事情あり。然らば五十圓は如何といふも是も餘り急劇に失する嫌ひあり、結局十圓を增徵することに決し、且つ其增收入は、各校の特別收入として、其の改善費に充つべしといふに此旨文部當局者に答申したれば、何れ遠からず値上げを實行するに至るべし。

三、年限延長の件

醫學の進歩と共に學修すべき科目益々繁多となりしを以つて、幾何か年限を延長するか、又は豫科を設くるか、兎に角現今よりは幾分年限を延長すべしとの議論は數年前より唱道せられつゝありし所なり。之を實行せんには經費にも大關係あり、且つ彼の醫育統一にも關係深き事たるを以て種々是非の論ありしも、何分にも問題の大なるだけ決議に至らず、尙ほ宿題として研究する事としたり。

以上の外に新設せらるべき醫化學科に關する協定等をなしたるが醫育統一に關しては當局者も校長側も一言を發せず病院改良の件亦決議せる所あら

ざりしと云ふ（醫海時報抄）

●岡山醫專校規則改正　同醫專校規則中の入學料金一圓を三圓に。其分納授業料第一回分十二圓を十六圓（九月十一日より同二十四日迄）に第二回九圓を十二圓（一月八日より同二十一日迄）に第三回九圓を十二圓（四月八日より同二十一日迄）に改正されたり、尤も四十四年七月以前の入學者にして第一年級に止まる者を除く外は舊規定に依るを得、同第廿四條に卒業受驗生の授業料は金八圓を九月十一日より同廿四日迄に納付し、前記舊記規程に依る卒業受驗生の授業料は六圓とすと追加せられ、又同第廿五條に卒業試驗に及第せざる者翌年の卒業試驗に應ずるも授業料を徵收せずと追加せられたり。從て舊第廿四條以下を順次繰下げられたり。尚ほ他の各官立醫專校も同樣に改正を許され近日それ〴〵發表の筈。

●陸軍委托學生總數　陸軍省より各醫科大學、各醫專校へ委托され居れる陸軍衛生部學生總數は三百十三名にして、三醫科大學九十七名、（此內藥學科三名）各醫專校に二百十六名（此內藥學科十名）ありといふ。

●海軍々醫と醫專校　海軍省は從來各醫學專門學校に對しては、依托學生の制度ありしが、本年十二月少軍醫及同候補生若干名を募集したる結果により、愈出願者豫定數を得るに至らざる傾向を認むるに於ては、陸軍の夫れと等しく醫專校へも依托生徒を募集するに至るべしと。

●奉天に於ける醫學の勃興　過般滿洲に於けるペストの流行は、頗る支那官民を刺擊せり、就中日進醫學の必要を感知せしむるに至りたり、其結果曩きに奉天に東三省醫學堂なるもの設立されしが今は又中等中西醫學堂、公益中等醫學堂なる二個の私立醫學校設立を見るに至れり、生徒募集中なるが景氣惡しき方にも非らずといふ、此他に尚ほ九月よりは滿鐵會社の醫學校も開校さるゝ事なれば、東三省の醫育の前途は多望なりといふ可く、想ふに支那四百餘州の文化は滿洲の一角よりして次第に推進するに至るべし。

●奉天醫學校生徒募集　來九月より開校につき八月中に五十名の生徒を募集する筈にて專ら日本に留學し日本語に通ぜる者を採用する事とし本邦の各學校に募集方を依頼し、校舍は差當り滿鐵病院の一部を使用するも明年度は新築する由。

＊　＊　＊　＊　＊
＊　＊　＊　＊　＊

校內雜報

●第五回陸上運動會記事

五月十一日

第五回陸上運動會は長町大藏省敷地に於て開催された初夏の蒼く晴れた空には早朝から幾度おく煙火が打上げられた、濃き綠の草の香芳しい會場には無數の彩旗、高く中央より吊り渡され、周圍は幾多の國旗を掛て廻らし幔幕を張つた來賓席と相對しては各級合同の級館杏林亭の綠門が飾られてある。

朝來の快晴に加へて青葉若葉の風は旗を靡かし頰を吹いて、實に絕好の運

動日和とて、三三五五と此所彼所に來觀者は集り來り、正午頃には會場の周圍凡て是人垣の盛況となつた。

九時半頃鈴が鳴つて號砲が響くと共に嘲嘲たる樂隊の吹奏裡に第一回競技は開始された　競技の勝者左の如し

第一回　二丁競走（三十九秒）

一着　伊藤　二着　豐田　三着　中原

第二回　二人三脚競走（四十秒）

一着（藤岡源明）　二着（安井本正）　三着（島井吉川）

第三回　戴囊提灯競走（一分十九秒）

一着　谷　二着　大田　三着　後藤

第四回　竹馬競走（一分三十二秒）

一着　岩田　二着　山角　三着　長外

忽ち煙火に驚かされて顧ると會場の一角から青い素敵に大なき風船が飛揚された、藥學科の餘興である

右に搖れ左に傾き青き一個の怪物は悠々と中空さして昇つて行く、遂には流れ流れて尾山城の若葉に消ゐた

第五回　戴囊スプーン競走（一分九秒）

一着　鈴木　二着　藤岡　三着　森部

第六回　四丁競走（一分二十二秒）

一着　野村　二着　吉川　三着　若山

第七回　一人一脚（三十秒）

一着　萩原　二着　加藤　三着　鈴木

第八回　鱒握競走（四十三秒）

一着　山田　二着　岡村　三着　田村

競技の間には時々神經姿の腰に鈴をつけた假裝の人が運動時報を配布する、時報の一片が空にひらめく所人垣が亂れ動搖し無數の手が空に向つてあげられる

第九回　六丁競走（二分九秒）

一着　小山　二着　兒島

第十回　化學競走（一分三秒）

一着　今澤　二着　田村　三着　增永

第十一回　制長競走（五十四秒）

一着　藤岡　二着　吉見

第十二回　救急競走（一分四十二秒）

一着（沥井中乙田部）

第十三回　二人三脚競走（四十三秒）

一着（窪田松田）　二着（宮野安井）　三着（澁谷林）

第十四回　戴囊提灯競走（一分十二秒）

一着　後藤　二着　下川　三着　牧

第十五回　鱒握競走（一分四十三秒）

一着　瀨戸　二着　勝木　三着　山田

第十六回　障害物競走（一分十八秒）

一着　宮田　二着　本　三着　松田

第十七回　操り競走（五十八秒）

一着（松長田）　二着（木秋村山）

第十八回　制步競走（五十二秒）

一着　島　二着　窪田

第十九回　竹馬競走（四十五秒）

一着　山角　二着　宮野　三着　柳瀨

第二十回二丁競走（三十七秒）

一着　豐田　二着　關山　三着　吉川

晝　午食　後

クラス館へ來て辨當を食べる。すし屋、たでん屋、そば屋、しるこ屋へもそれぞれ訪問する。草子屋と密柑は券を入にくれたから、これは余議なく略する。選擧運動ちやあるまいし、こんな軒別訪問をやらかすところを見ると記錄係もさもしい男ではある。さもしい男でも自分だと可愛い。テーブルに向つて番茶を飲む。「三四郎」の廣田先生のやうに鼻から哲學の烟を吐くんではなくて、思ふこと、すべてこれ雜念雜慮である。だから十二方位に氣を配つてる、困つた男だ。尤も相手が番茶ぢんだから、ちつとは恕すべきである。日君が運動報社の原稿用紙といふものを出したから、それへいたづら書きをしたら、テーブルを來賓席へ持つて行くからと言つて退去を命ぜられる。記錄係はくちくなつた腹を運んで西の方へ引返す。靈飯でも人がちつとも減らない。「零時三十分」までとあるのだからすぐ競技が始まる。

第二十一回　重荷競爭（四十九秒）
一着　佐々木　二着　安　達　三着　瀨　戸
第二十二回　戴囊スプン（一分十六秒）
一着　村　松　二着　島　三着　富　永
第二十三回　六丁競爭（二分十五秒）
一着　伊　藤　二着　宮　內
第二十四回　化學競爭（一分三十四秒）
一着　佐々木　二着　鹿　野　三着　池　田
第二十五回　板ガンスプン（一分三十二秒）
一着　村　松　二着　秋　山　三着　池　田
第二十六回　救急競爭（二分）
（中原、植西、豐田）

藥學科の假裝行列が出て來る。パチパチと拍手の音が聞える。記錄係もパチパチをやる。內心嬉しくてたまらぬのである。まづ、にらそうに構えた座頭が一番先きに來る。それに村會議員、大僧正がつゞく。大僧正は蟬のうす羽よりか奇麗な、色どりのある袈裟をかけてる。何宗だらうか、一寸判斷がつかぬ。からだはたくましいが、顏つきがのんきに出來てるから叡山の惡僧とも似かぬ。でも、「大僧正」といふビラが下つてるんだからえらいや。次は、車夫と旦那。フロックの旦那が車をひいて、車夫がちやんとうの上へ乘つてる。旦那の顏を見ると、無暗と威勢がつてるばかりで、間のぬけてること夥しい。これでは車夫程のタメも世間へ向つて出來そうではない。主客の轉換は當然であらうと考へる。車夫の半纏のキチンとからだにあつてるのと、顏がいかさまほんとうのリキシヤマンらしいので、記錄係は思はず「はて？この車夫はどこぞで見たぞ？」と、本氣に考へ込んだところ正しく變體心理學の材料。次が、ハイカラ武士、チヨンマケのサムライが自轉車の除行をやる。次が、旦那と下女、れ鍋が車上にれみこしを据てる。次が、西國巡禮、白衣に編笠のいかせな巡禮姿、なぜだか、記錄係はれ夏清十郎を一寸思ひ出した。それから、ベーケル試驗管、コルベン、ビウレツト、メートルグラス、乳鉢、などいづれも御商賣道具を千倍以上に擴大したものが續いて來る。次が、六〇七號「肺病新藥」と書いてある。次が、ロート、キツプソーチ、次が、國土山、關取さんだ、あまり強くなさそうな。次が、草刈女、エハガキにある大原女か、宇治の茶摘みと言つた風、こんな草刈女はどこにも居まい。次が、一寸法師、二尺ばかりの侏儒が自由に調子を取つて歩く、感心々々。御次が、番頭さん、無細工な算盤と帳簿をしつかり抱へて居る。次が、武士、次が、赤毛布。次が、喜撰法師。何の因果でこんなところへ引張り出されたものか、「わがいほは都のいぬる穴水の町の近くへ引越しにけり」とでも言はうといふのか。次が、俠客、生倉屋次郎兵衛の三代目位に見える。次が、〻〻〻、次が、

看護婦。次が、戰國時代の女學生。カーキ色の士官さんとエビチヤとの道連れ。女學生のゲジヒトにはうす髭がある。明治九十九年頃にはこんなことがほんとうにあるかもしれぬ、と余計なことを考へる、次には、陸軍將校。次は、勘兵衛。次は、海軍士官。次が、「金澤醫學專門學校運動會見物團」として、赤毛布が七人。よくもかう赤毛布が借られたものだと感心する。一度、ぐるつと廻つてからラインに揃ひランニングレース。（此間拍手喝采の連續）。紳士が女學生を助けて紳士道を發揮し、赤毛布はバタリバタリと、異彩を放つて、しんがりをつとめる。（拍手喝采）

一着　車　夫　二着　喜撰法師　三着　海軍士官

第二十七回　八丁競爭（三分二十秒）

一着　前　川　二着　楠　田　三着　鳥　居

第二十八回　鰤擲競爭（一分四十七秒）

一着　鹿　野　二着　新　三着　竹　內

第二十九回　カツポリ競爭（二分三十六秒）

グワタ〳〵〳〵〳〵、と天下のあはて者を集めたやうな音がする。

一着　坪　井　二着　湊　三着　高　倉

ここで、記錄係は服を脫ぎ、袴を穿き、道具をつけて、暗夜野仕合と言ふものに出て目隱しされた上したたかたゝかれて閉口する。ま手間に夏密柑を頂戴したからその場で食べる。よく人は、衆人稠座の前と言ふが、記錄係は生れてからこれ位大衆の衆人稠座のしかも眞中で憶面もふく物を食べたことが始めてである。で、其「始めて」を食つてると二年の餘興がやつて來た。御み輿だ。笛と太鼓の囃しがついで、紅い手拭で頰かむりした二年級諸君がそれをひいて——お御輿——屋擧の上から、キヤリ節に合して、紅白の餅をまく。記錄係はそれを見て少々驚いたと言ふよりか、豫期以外の性質を帶びた、豫期以外のものの侵入のために混雜した一種の氣持を抱かせられてそれに注意する興味を失つた。記錄係は以前在で見た、ま祭のま御輿騷ぎを思ひ出した。（人垣がます〳〵厚くなる）

第三十回　障害物競爭（一分二十九秒）

一着　橋　本　二着　中　原　三着　鈴　木

第三十一回　戴囊提灯（一分五秒）

一着　谷　二着　高　橋　三着　松　本

第三十二回　竹馬競爭（一分三十五秒）

一着　竹　內　二着　佐　藤　三着　谷

第三十三回　二人三脚（四十五秒）

一着　下間、豐岡　二着　秋山、島田

第三十四回　跛者戴囊（一分）

一着　松　井　二着　岡　田

醫科三年の假裝行列

A、「日本一藥館」オチニ。B、千金丹賣、これは反魂丹にすれば善いのに、N君は越中は富山の人である。C、內科醫、これは香林坊へ來たチヤリ子の醫者の持つてた聽診器などの方が却つて面白かつた。D、看護婦。E、外科醫。F、手洗持、割の悪い役。G、外科患者、凭身杖のつき方がうまい。H、耳鼻咽喉科醫。I、產科醫。この赤ん坊は白ん坊だ。J、眼科醫と眼科患者（パンヌス）。K、皮膚病醫。L、梅毒患者。M、衞生係、F君の知らん顏してビヂラの先きに石油鑵をかたつかせて行く一寸離れた態度は記錄係を喜ばせた。陶淵明の、採菊東籬下、悠然見南山。といふ趣味がある。（拍手喝采）、一週後同樣競爭。「外科患者の走ること！」、外科醫は決勝点近くになつて見事轉け、其權大のメスを二つに折つた。（拍手喝采）

一着　外科患者　二着　梅毒患者　三着　パンヌス患者

第三十五回　兎飛競爭（一分五秒）

一着　藤　岡　二着　青　木

第三十六回　飛脚競爭（三分十四秒）

一着　沖　　二着　寛　永

野球部餘興、小國民ダンス。拍手、拍手、拍手、

二十人ばかり、半分は女生徒、半分は男生徒、皆小國民の服裝だから眞に衣衩に到るといふ有樣、中には野見宿禰も三舍を避けるやうな毛脛をエビチヤの袴の下から堂々と出してるものもあれば、紋付きの上に時計の鎖を首から懸けてる瀟洒たるのもある、これが山高帽にフロックコートといふと殊勝だが顏には汚ない薔芝居の中間みたやうな鬚を蓄ばへ素足に草鞋を穿いたきてれつな先生廣瀨君に引率せられて、樂隊に足並合はして出て來る。先づ一週した後に場の中央に出て來て輪になり「もしもし龜よ龜さんよ」と一糸亂れず手を組み足拍子をとつて踊る、青鬚の先生は笛を鳴らし下顎を使つて號令する、無邪氣にして奇拔、面白き事この上もない、一萬人ばかりの見物人のうち笑はぬ者はよもあるまい、もしあれば三叉神經痛の患者位だ、それがすんでから例の如く、一同ラインに揃ひ競爭をやる、先登第一着が身の丈六尺ばかりのメツチエン、兩手を擧げて大音聲に「一等！」と呼ばはる、素晴らしい勢である、會長さんはにこ〳〵。（拍手喝采）

第三十七回　各尋常小學校生徒競爭（四十二秒）

一着　松ケ枝町校　二着　芳齋町校　三着　長町校

第三十八回　一哩競爭（六分十五秒）

一着　西岡　二着　瀨戸　三着　鳥居　四着　源明　五着　增山

第三十九回　各縣立學校選手競爭

一着　師範學校　二着　第一中學校　三着　第一中學校

第四十回　第四高等學校選手競爭

一着　鈴木　二着　高橋　三着　八賀

第四十一回　職員競爭（鱠摑競爭）（五十五秒）

一着　福岡（藥學科）　二着　笠井　三着　關戸

第四十二回　使丁競爭

第四十三回　各級選手競爭（三週）（二分十八秒）

一着　小島（醫二）　二着　宮內（藥一）　三着　中原（醫四）

四着　小越（醫一）　五着　氷室（醫一）

日かげが薄れて、いつの間にか物の影もなくなつて居た、――日はもう沈んで縣立女學校の屋根が黑く聳ゑて居る、見物人が散ずるのと生徒の會長の前へ集合するのと同時。無數の黑いものが俄に働く……。「豫期以上の成功を納めてまことに滿足に存じます……」。との御言葉を頂いた我々の喜びは二重になる。まだ嬉しいものがある。

「明日は休み！」。（JF）

◉野球大會記事（自五月十二日至五月十四日）

櫻が散つて牡丹が開き藤がすがつて菖蒲が咲いて今年も今や新綠の薬風涼しい初夏となつた、街のところどころには五月幟が風に靡いて鯉の吹きながしが勢よく空中に舞つて居る、實に五月は尙武の月だ、男性の月だ、此の男性的な尙武的な五月に當つて運動技中最も男性的であり且つ尙武的である野球大會が吾が醫專校に開かれたのは實に隅然ではあるまい。時は若葉の綠滴たる皐月！十二日より十四日まで三日に渡つて此の痛快なる十全會野球大會が四高グラウンドに於て開かれた

第一日　校內試合　（五月十二日午後）

前日の本校紀念日の運動會に勞れた身体も物とせず同好の士は早や會場に押し寄せて今か今かと待つて居る、大會の第一日は校內の試合で其の第一回は午後三時と云ふに野球キヤプテン加藤氏が審判の元に開かれた、紅軍は新進の皆川、伊藤がバツテリーを以てし白軍は老練の中原、江龍を以て迎へた、兩軍能く戰ふたが白軍のエラー多く遂に八對二を以て勝は紅に歸

した、續て第二回は撰手江龍氏の審判で始まつた、紅軍は榎本、西岡を白軍は岩田、鈴木をバッテリーとし技伯仲、紅軍の田原ホームランに氣を吐けば白軍の岩田ツーベスヒットに此を報ひ、各ひに讓らず戰ふたが結果四對七を以て白軍の勝とふつた。

第二日　醫專四高混合試合　（十三日午後）

空は曇つて風は寒かつたが大會中の華たる本校本撰手對四高撰手の競技が此の日に開かれると云ふので見物は前日に數倍した、而かし出場者の都合に依て對校試合を中止し混合試合の止むかきに到つたは是非もかい次第だ、が兩校のバッテリーだけは此れを變へずに醫專の西川、加藤四高の和智、渡邊を以てした。

戰は本校マチツヤ廣瀨氏審判の元に午後三時開始

第一戰、紅軍先攻和智四球に出で渡邊左翼を突破して走り、伊藤の二壘グラウンダーに先づ和智を入れ次で齋田の安全打に渡邊生還して紅軍初戰大に振ふ、白軍代攻、西川Pゴロに死し加藤三振、僅かに千家SSを突いて走りしも鈴木のフライを左翼に得られ三壘に奮死、

第二戰、紅軍の西岡二壘の失に出で投手のワイルドに生還一点を加ふ、白軍筧井IIIBゴロに藤岡四球を利して走り共に生還、

第三戰、紅軍相續でPゴロに倒れ白軍代攻、千家再び三壘に猛裂ある直球を呈し其の失に出で鈴木が二壘ゴロに生還し此所に兩軍全点となる、

第四戰、に入るや紅軍の凡死續出に反して白軍大に振ひ藤岡三壘グラウンダーに出で平手四球を利して進み供に二壘一壘に依る、捕手渡邊藤岡を刺さんとして投じたる球稍々高く二壘手齋田の逸する所となり球は轉々として外野に失し、兩人衝を双べて生還、

第五回、紅軍更らに振はず徒に投手西川をして其の功を專にせしむ、白軍興に乘じ安全球を連發し加藤、千家、筧井、藤岡共に生還一擧四点を奪い合計十点、

第六回、紅軍此の時投手和智退き二壘齋田と代り中堅神尾又負傷して新たに渡邊此に代る、兩軍共に得点一

第七回、紅軍味方の連敗に奮慨し獰猛ある聲援の元に渡邊先づ走り伊藤此に次ぎ齋田、宮内共に其の失に出で相續て生還、白軍振はず八對十にて第八回に入る、此の時白軍の投手西川持病の腰痛再發任に堪ゑず藤岡と代る、紅軍再び振ひ齋田のホームラン先づ敵の膽を消し一壘三点合計十一点と號す、白軍又奮戰し西川Pゴロに出で千家IIIBデレクトに生き相共に生還し十一對十二、クロースゲームにて愈々ラストインニングに入る、紅軍此の一戰に入らずんば永久に其の機を失はんと大に決する所あり西岡、渡邊、堀田共に白軍のミスに出で和智の二壘打に四人續て生還觀呼の聲沸が如し、白軍代り攻めしも更らに昔日の勇ゑく藤岡、平手、江龍相次で凡死し遂に戰は十五對十二にて紅軍の勝に歸す。

第三日　各校對抗試合　（十四日）

愈々今日は北陸野球團の優勝旗の爭覇戰ゑり、此に參加するを金澤第一中學、松任農學校、縣立師範學校、工業商業二中聯合軍及び醫專校第二撰手の五とす、

午前の部　第一回　第二撰手對聯合軍

廣瀨氏審判の元に開始聯合軍先攻、第一戰二点を二戰に一点を三戰に三点を征して先づ氣を吐く、第二撰手更らに得点ゑし第三、四戰に辛く三点を得第五戰に入る聯合軍大に振ひ我がミスに乘じて一擧五点を上ぐ、セコチヤン更に振はず最終の第六戰に入るや再び聯合軍の好打續出し六点を得て得々然たり、大勢既に決して又如何とも仕難し、されど第二撰手もさる者、先づ今村が左翼ホーバーの痛快極まる二壘打を初めとし快打相ひ次ぎ一擧四点を得て悼尾の一振を呈せしも遂に十七對七にて聯合軍の勝。

尙引續いて第二回に移る。

第二回　師範校對農學校

本校撰手伊藤氏審判にて十一時開始、朝より怪しげなりし空此の頃よりポツ〳〵降り出す。師軍先攻第一戰得点無かりしも二戰に四点を三戰に三点を入れ大に振ふ、農軍第一戰敵の四球と死球を利して二点を納めたるも其の後得点なく四戰に致たり四球に出てたる藤原續く辻口がライトオーバの二塁打に生還して辛く一点を加ふ、師軍四、五、六戰共に凡死相續て振はず、農軍奮戰最終戰に一点を得しも遂に及ばず七對四を以て勝利は師軍の手に落ちた。

午後の部　第三回　金澤一中對聯合軍

午前の雨は此の頃から少し晴れ上る、四高撰手渡邊氏審判にて二時開戰、一中先攻壁頭山本SSオーバーのヒツトに出て鼠の如き盜塁を以て生還せしを初めとし續く松井、松川各々敵のエラーに乘じて走り下村がRFオーバーと畝村が犧牲球に生きて一塁三点を博す、聯軍代攻高橋四球に出で魚住が犧牲球に本塁を陷れ一点を得、二戰一中敵のエラーにて再び二点を擧げ聯軍の三浦又四球を利して一点を加ふ、三戰以後一中バントを連發して敵を苦しめ此に乘じて三戰に三点、四戰に一点、五戰に六点を博し都合十五点を得たるも聯軍更に振はず僅かに前に得たる二点のみにて最終の第六戰に入る、一中方山本SSに飛球を呈し其の失に出で松井が三振に乘じ本塁にスチールし又一点を加ふ、聯合軍の大山セコンドオーバに出て吉岡がバントに一点を得しも續く三人は皆投手安藤が醜弄の中に葬られ遂に戰は十六對三の大々的差違を以て一中の勝。

第四回　一中校對師範校

暫時晴れし雨は再び降り出だせしがいづれも血氣の若殿原さて雨を冒かして渡邊氏審判の元に續行、

一中方呼吸をも付かづ再び先攻、老憎ふる山本四球に出で續く安藤がインフィルドヒツーに生還し安藤亦下村が左翼への安全球に生き二点を擧ぐ、師軍代攻三振相次で振はず、第二戰、二死者の後を受けたる郡山四球に出て山本がヒツトに生還し又一点を加ふ、師軍奮慨置く能はず館中右翼オーバーのツーベースヒツトにかつ飛ばして出でしも續く橋本がPゴロにて本塁にフォースアウト、橋元巧に敵の塵を突て走りパスボールにて生還、第三戰雨は瀧の如くにして戰は益々急ふり長軀の松井鐵棍一擊すれば球は飛で雲中に入りしフトオーバーのスリーベースヒツトとなり一氣に本塁を陷る。一中方此に氣を得て好打續出遂に四点を博す、師軍代攻井家セコンドオーバーに出で市川のバントに送られて生還せしも其の後振はず戰は第四戰に入らんとせしも此の時急雨は篠つく如くグランウドは泥田と化して又用ふ可からず、遂に両軍談判の結果師軍は勝を一中に讓り此所に連戰三日の野球大會はゲームセットとなり一中は最後の月桂冠を頂きて彌次の萬歳天に神す。

戰後當日出場の各校撰手は第一分教場の六角堂に會し優勝組にメタルの授與式あり最優勝の金澤一中は本校優勝旗並にメタルの他に大阪朝日新聞寄贈の北陸聯合野球大會最優組への金メタル及び北國新聞寄贈の優勝旗を得、式後茶話會を開きて各撰手相互に胸襟を開きて菓子を嚙み茶をすゝりつて相語り散會したるは薄暮に近かゝりき。

因に右三日間の成積は下に示すが如し

第一日第一回（校内試合）

紅

得点	2	2	1	0	1	1	1	0	0
打數	3	3	1	3	3	3	1	0	1
安打	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三振	0	0	2	0	0	0	1	2	2
四球	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	7	0	18	8	8	3	4	2	3

皆川	P
伊藤	C
野村	SS
宮田	1B
今村	2B
植田	3B
沖西	RF
窪田	CF
高橋	LF

自

得点	0	1	3	3	1	2	2	1	1
打數	1	0	3	3	1	1	0	0	0
安打	0	0	1	1	0	1	0	0	0
三振	0	0	0	0	1	1	0	0	1
四球	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	2	5	2	19	2	4	2	1	2

中原	P
江龍	C
富田	SS
安宅	1B
磯田	2B
豐田	3B
澁田	RF
石谷	CF
藤坂	LF
田	

第一日第二回（校內試合）

紅		得点	打數	安打	三振	四球
本榎	P	0	2	0	0	1
岡西	C	0	2	0	0	0
比日	IB	0	1	0	1	1
口川	IIB	1	3	0	0	0
田松	IIIB	1	1	0	1	1
原田	SS	1	1	1	1	0
藤加	LF	0	0	0	1	1
口野	CF	1	0	0	1	1
堀	RF	0	2	0	0	0
		4	12	1	5	5

白		得点	打數	安打	三振	四球
田岩	P	1	3	1	1	0
本鈴	C	0	2	0	0	1
田富	IB	1	2	1	0	1
田山	IIB	1	1	0	0	2
原中	IIIB	1	2	0	1	0
田磯	SS	0	2	0	1	0
谷澁	LF	1	2	0	0	1
田藤	CF	1	2	0	1	0
坂石	RF	1	3	0	0	0
		7	19	1	5	4

第二日　醫專四高混合試合（○印ハ四高）

紅		得点	打數	安打	三振	四球
川西	P	3	2	0	1	0
藤加	C	2	2	1	0	1
家○千○	IB	3	4	2	0	0
本鈴	IIB	0	4	0	1	0
井○筏	IIIB	2	5	1	0	0
岡○藤○	SS	3	3	0	1	0
手○平○	LF	1	3	0	1	0
龍江	CF	0	2	0	2	0
釣○	LF	0	1	0	1	0
		12	28	5	8	5

白		得点	打數	安打	三振	四球
智○和○	P	2	3	1	0	1
邊○渡○	O	3	5	2	0	1
藤伊	IB	2	4	1	1	1
田○齊○	IIB	2	6	3	0	0
倉高	IIIB	0	5	0	1	0
內宮	SS	1	4	0	1	0
岡西	LF	2	1	0	2	0
尾○神○	CF	2	4	1	0	0
田堀	RF	1	3	0	0	0
		15	35	8	5	4

ホームラン　齊田一

二疊打和智一

第三日第一回　醫專校第二撰手對聯合軍

醫		得点	打數	安打	三振	四球
田岩	P	1	2	0	0	0
岡西	C	2	2	0	1	1
龍江	IB	3	4	1	0	0
村今	IIB	0	4	0	1	0
田豐	IIIB	2	5	0	1	0
原中	SS	3	3	0	0	1
田山	LF	1	3	0	1	1
田豐	CF	0	2	0	1	1
口川	RF	0	1	0	0	0
		12	26	1	4	4

聯		得点	打數	安打	三振	四球
(商)田吉	P	4	2	1	0	0
(工)橋高	C	1	2	0	1	1
(二)山大	IB	2	3	0	2	1
(商)地淺	IIB	3	4	1	0	0
(二)岡笹	IIIB	1	3	1	0	0
(二)浦三	SS	1	4	0	1	0
(商)宅安	LF	1	3	0	0	0
(工)住魚	CF	1	3	0	0	0
(工)村中	RF	2	2	0	1	1
		16	26	4	5	3

二疊打今村一、高橋一、

第三日第二回　師範校對農學校

師		得点	打數	安打	三振	四球
家井	P	0	1	0	0	0
川市	SS	0	2	0	2	0
本中	CF	2	2	0	0	0
中舘	IIIB	1	4	0	1	1
元橋	IB	2	3	0	1	0
敷樋	IIB	0	3	0	1	0
井好	RF	0	2	0	1	0
田市	LF	1	3	0	0	0
野岡	C	0	2	0	0	0
		7	16	1	8	3

農		得点	打數	安打	三振	四球
本松	CF	3	4	0	2	0
岸山	C	2	4	0	0	1
田村	IB	3	4	0	0	1
野押	IIIB	3	4	0	0	0
田松	RF	2	5	1	0	0
邊濱	LF	2	3	0	1	2
谷神	SS	2	2	0	1	0
原藤	P	1	2	0	0	0
口辻	IIB	0	3	0	0	0
		17	28	6	3	2

二疊打辻口一、

第三日第三回　金澤一中對聯合軍

中		得点	打數	安打	三振	四球
本山	C	0	1	0	0	0
藤安	P	1	2	0	1	0
井松	IB	1	2	1	1	0
川松	IIIB	2	1	0	1	0
村下	LF	1	3	0	0	0
村畝	SS	0	3	0	0	0
木三	CF	0	2	0	1	0
本國	RF	0	1	0	0	2
山郡	IIB	0	1	0	0	0
		6	16	1	3	2

聯		得点	打數	安打	三振	四球
地淺	IIB	3	0	0	0	0
橋高	C	1	1	0	0	0
岡笹	IIIB	3	0	0	1	0
住魚	CF	3	0	0	1	0
山大	IB	3	1	1	0	2
村中	RF	2	0	0	0	0
岡吉	P	1	0	0	1	1
浦三	SS	1	1	0	0	0
宅安	LF	2	0	0	0	0
		19	3	2	5	5

第三日第四回　一中對師範

		四球	失策
中			
山本	C	0	0
安藤	P	0	0
松井	IB	0	1
松川	IIIB	0	1
下村	LF	0	1
畝村	SS	0	0
三木	CF	1	0
國本	RF	0	0
郡山	IIB	1	0
		2	3

	打數	得点	安打	盜壘	犧球	三振	四球	失策
中								
山本	1	1	1	0	0	0	1	0
安藤	3	1	1	0	0	0	0	0
松井	1	1	1	0	0	0	0	1
松川	0	0	0	0	0	2	0	0
下村	1	0	2	0	0	0	1	0
畝村	0	1	0	0	0	1	0	0
三木	2	1	0	0	1	0	0	0
國本	2	1	0	0	0	0	0	1
郡山	1	1	1	0	0	0	0	1
	11	7	6	0	1	3	2	2

		四球	失策
師			
家井	P	0	4
井市	SS	1	0
市中	CF	0	3
中館	IIIB	0	0
館橋	IB	0	3
橋元	IIB	0	0
元敷	RF	0	0
敷井	LF	1	3
井田	C	0	0
田野		2	13

	打數	得点	安打	盜壘	犧球	三振	四球	失策
師								
家井	1	1	1	0	0	1	0	1
井市	0	0	0	0	0	1	1	0
市中	1	0	0	0	0	1	1	0
中館	2	0	1	0	0	0	0	0
館橋	1	1	0	0	1	1	0	0
橋元	0	0	0	0	0	0	1	0
元敷	0	0	0	0	0	1	0	0
敷井	1	0	0	0	0	0	0	0
井田	0	0	0	0	0	0	1	0
田野	1	0	0	0	0	0	0	1
	7	2	2	0	0	2	6	0

三塁打松井一、二塁打館中一、

●三年級々會

（木津へ）

停車場は本願寺詣りの人々で溢れてゐた。しかし、一行の列車は下りなのだから悠々と其間を縫つて乘り込むことが出來た。五時五十分。「いゝ天氣だなあ」とあつちでもこつちでも言つてゐる。青い朝がきら〳〵と窓に迫る。「まだ遲れて來る奴が居るだらうな」。「居るだらう。僕等もやつとだつたもの。もう十分遲けりあだめなんだつたなあ」。「睡かつた！」なんと誰も言はぬ。其實、置時計の鳴るのと、宿のおばさんの聲の憎かつたのを皆忘れてゐる。

流笛が鳴つた。出るか、と思ふ那刹、鬚の男が二人はいつて來た。皆どつと笑ふ。

津幡で下りた。これから、二里半。二人三人づゝ、思ひ〳〵に歩く。道が砂地でごつ〳〵しない。愉快だ。朝日が照る。やはらかい朝の光線が足先きまで徹るやうだ。輕い砂ぼこりが、靜かに靴の踵から上る。椿、ぼけ、桃、櫻が咲いてゐる。左手に河北潟が見にて來た。湯氣の立つみるくのやうな。朝霧が輝いて、潟の水がねむそうに瞬く。その向ふに高い砂丘の松をへだてゝ、日本海の空がうすむらさきに、煙つたやうに霧んでゐる。田のところ〴〵に榛の木立がある。今目醒めたやうな右手の山々に峰が赤く光る。朝の眺めのどれもこれも「自然は『靜』である」。「自然は『自由』である」。と語つてゐるやうだ。

道ばたの小さな畑に菜種がいつぱい花をつけてゐた。一行の體がます〳〵長くなつた。潟が見にくくなつて、一時間後、一行は松林の中を歩いてゐた。——臘い松の緑とやさしい空の色を見ながら。やがて、木津へ近いたのであらう、桃の畑がぽつ〳〵赤く見にて來る。

光源寺といふ寺が會場である。寺といひ條まぶしい位明るい。內陣は閉てきられて、欄間の洋土畫の朱と緑とが晝の光をあびてゐる。開いた表戸の間から櫻と桃との花が手にとるやうに見える。宮田先生、阿部先生、佐々城先生がおいでになる。開會十時半。拍手の音、それから、ワーッといふ笑聲が代る〴〵起る。宮田先生、阿部先生、佐々城先生、高橋君、藤澤君、廣瀨君、川口君のテーブルスピーチがそれ〴〵終る。廣瀨君の水難實驗談は面白かつた。もう午後だつた。津幡から運ばれたきびだんごとお菓子、宮田先生から頂いた夏みかんが配られる。皆のべんたうは開會前にもうなくなつてゐたのだ。

やがて餘興に移つた。岡田君、岩田君の琵琶歌、——常陸丸。小山君の劍舞——踏破千山。皆「うまい〳〵」つて感心する松山君、永山君のヴァ井オリン合奏——黑髮。加勢君の謠曲——俊寛。「うまいれ！」。小山君の劍舞——殘月滴露。表戸のところに村の者がいつぱい見てゐる。岡田君の琵

琶――管公。永山君のヴァヰオリン獨奏――千鳥。これで當日の餘興中の餘興である十家投票にはいる。ハイカラとバンカラ。朝霞坊と早起。大食家。肥滿家と痩ぼち。運動家と非運動家。「エ――ハイカラ、、、バンカラ、、」といふ二合に讀み上げては古新聞の上に採点する。この間殆んど笑ひの絶間がない。笑ひのマキシマルを出さないものがなかつた位。當選者はハイカラ、關山君。バンカラ、本君。肥滿家、佐々城先生。痩つぼち、齋藤君。大食家、川口君。少食家、篠田君。朝霞坊、阿部先生。早起、笠鳥君。運動家、廣瀬君。非運動家、篠田君。當選者はテーブルを控へて立つてる川口君の前に出て一々お辞儀をして賞品をいたゞき何か出鱈目を言つて來ればよかつた。

關山君は頭を氣にしてクラブ洗粉を頂戴し、本君は大悟徹底した青頭をふりたて、草履一足を勝ち得た。川口君は獨特の説明を一々施しながら賞品を授與する。佐々城先生はドイツ何々會社製劑の Abführmittel の大きなパツケをもらはれる。阿部先生は華蛮の國から容易に醒むべく、鈴と笛とを一所にした玩具を頂だかせられる……。

次で松山君のヴァヰオリン獨奏――越後獅子、日の出マーチ、がいせんマーチ。はつきりした音、ヴヴヰツドな調子は一時に聽者のハートを一つに結晶せしめた終りに岡田君、岩田君の琵琶――城山。

光源寺を出たとき一行はすつぽり夕日を浴びた。かん〳〵とした夕日の横山を發してからも瀛車も窓からしみ〴〵とそれを見た。田の上、潟の上、木立の上一面に落ちた金色は眞夏を思はせるやうな華やかなものだつた。瀛車は「ほんつぼた」で乘り換へる。ふがふがと待つ。乘客が多くて一等へ乘せてもらつたものもある。

夕日はいつの間にか薄れてゐた。瀛車をすて、歩き出したときは可なりからだが冷たく感じてゐた（JF）

通信

●日野信次氏通信

（松原教授宛）

全氏は明治三十六年に本校を卒業して直ちに陸軍々醫となられ累進して一等軍醫となられしが終に壯志を抱きて獨乙ミュンヘンに留學して外科學及び耳鼻咽喉病學を專攻し歴々本誌に通信せられしが此度「ドクトル」の學位を得て去五月十六日無事歸朝せられたり

時下薄暑の候益々御清榮奉賀候陳者小生留學中は種々御配慮を蒙り難有厚く御禮申上候御陰を以つて途中無事去る五月十五日歸朝仕り候乍余事御休神被下度候

何れ近々貴地に歸任仕り拜眉の上萬々貴意を得申度く今後何奚れと御厄介に預り何分宜敷御願申上候十全會雜誌は將來歐州へ御發送御見合せ下されて度當分愛知縣一宮へ宛御願申上度種々御面倒乍ら御願上候今回はシベリアを經て歸朝仕り候陽春四月の末尚ほ沿道廣漠たるシベリアの高原は殘の雪解けやらで餘寒料峭音に聞くバイカル湖上の結氷遠き不絶の雪巒を相映じてシベリア横斷中の絶景と存じ候途中モスコウに數日間滯在仕り候モスコウは露國の經濟的首都にして富豪の多き事過ぎつる日露戰役の軍費は此一都市より三十%を支出せりと聞き及び候例の殺風景の露國の事とて革命黨虚無黨等に備ふるため太平の今日尚ほ全國に軍政を布き劍戟の音戛々として市中を警戒する等一寸異常に感じ申し候有名なる伯トルストイの役後露國大學生の死刑廢止論の主張を政府の主張と衝突の結果茲に全大學の同盟休校と相成り校を閉づる事六ケ月有余と聞き及び候我が國に於ける休校騒

ぎの如き試驗が困難だとか一教官が氣に喰はぬとかにて騷ぐ休校とは事變はり其堂々たる主張の許に陣形整々天下に呼號するの点は他の凡ての惡点を除去して頗る嘆美すべき者にとはずや露國にも近來醫界の泰斗仲々に多く候去り乍ら到底獨逸方面の多士濟々に比すべくも候はず某日某露人僕を訪ふて診を需む小生問ふて云はく何故に露國の醫士に診を受けざるやと露人應じて云はくコチラの醫者は高い計りで當てにならずと元より一市人の談屑露醫を厭ふて日醫を慕ふ者こそ當にならざれど亦這般一道の機微を窮知するに難からず候モスコウ市民の對日本人の Feindseligkeit は實に豫想外に有之同地在留の日本人は外出等に關して其筋より非常なる注目を受け市民は日本人を指顧して猿と罵り不快云ふべからずと聞き及び申し候無論露國の歴史上殊質上斯くありそうな事に有之候さうかと思へばフインランド人等は露國の大敗を非常に喜び陰に日本人を見ては心からの熱き感謝を表し申候モスコウ氏は寺のモスコ市に有之寺院の高塔天を摩して頂天に飾れる黄金の屋根は金色燦爛として夕日に映る宮殿の光景と相應じてモ市の美感たり其美はしき高塔は其數實に美しく彼の寺と露國とは誠に密接の關係有之田舍の殺風景なる有樣迚も人の往めるものとは思はれぬ程の荒村にも寺のみは白堊丹壁聳然として一村落中の群を拔き居候事露國が貴族專政にして其昔奴隷（Sklave）賣買の當時下民の財を寺院に集注せしめたる政策ありし事を思ひ浮べて感慨無量に有之候シベリヤ沿道の村落は今尚ほ外觀内容共にスクラーヴエの住家とこそ確に受取られ申候日本の村落も露國のに比しては鼻が高く候ハルピンの大停車場に元勳伊藤公の靈に詣で候今公の斃れたるプラツトホームに一大紀念碑の建設中に有之此紀念碑の建設には露國も多大の好意を以つてプラツトホームの眞中に建設すと聞き及び申候淩工の上は東西の旅客に映ずるシベリア中の唯一のデンクマールたるべくと存ず候浦盡は思つたより風景佳絶歐式建築の偉麗峨々たる連峰に並ぶや幾百門の巨砲灣港を臨みて威風堂々たるもの有之候一書夜半の海上無事遥に望む故山の風色初夏の萬象突も滴る北陸の沿岸漁る小舟の眞帆片帆闌として人籟ふき清涼の氣三年の外遊を茲に終つて上陸したる敦賀港瞬間の感は流石に一代の忘るべからざる記憶の印條ふり直ちに敦賀病院に北川健三君を訪ふて談笑酒を盡して母校の健全を祈り申し候シベリヤ横斷中の一小品は一笑迄に御報申上候

歸朝後匆々寸暇を以つて認め候亂筆已に萬々御承知乍ら餘りの御無音に御詫びまでにと存じ記し申し候

十全會各位に宜敷御鳳聲あらん事を

●那谷與一君通信

（石譯氏宛）

御手紙有り難く拜讀仕り候醫局皆々樣には益々御清祥の由目出度存じ奉り候次に小生も幸に無事罷在候間乍憚御安心被下度候偖て貴兄と分秋以來早や二十日余りを過ごし候へ共別に之れと云ふ事の程も仕らず只醫員二人に御座候間實地に接する事少しく多くなりし位に御座候入院患者は目下三十九名有之中精神病者二十名御座候療法等は金澤と大差ふく只華族とか其他學識ある患者の理屈を捏ねらるゝには少ふからず閉口致し居り候貴兄は溫厚篤實にし人格高くしかも博識ふる松原先生の元に於て研究せらるゝは實に幸福に御座候小生は今先生の膝下を離れて始めて痛切に感ずるにて候日比谷上野の莫然として人工的ふるを見て始めて兼六の眞美を解し得るが如く遠霞にかすむ富岳の如き先生は小生の日夜敬慕する所に御座候憚り乍ら先生福田樣石川樣によろしく御傳へ被下度願上候

●長井敬孝氏通信

（四十二年度卒業生某氏宛）

もう試驗が濟むたらう御目出度う此れからどうする僕はもう支那語も何處

が痛いか位は聽けるやうにおつたしチブスと赤痢位は區別かつくやうにおつた乘馬や鐵砲打ちや川狩なぞは時々やるよ（中略）君も之れから溫泉へでも行つて意氣を養い給へ

記者云ふ昨年十月某氏宛來着の書を乞ひ受け前號に記載すべきを通合により延引せし段は同氏に謝す長井氏は卒業後暫く某鑛山に奉職されしが風雲に乘じし一躍北京に渡り北京二條胡同川田醫院にて敏腕を振はると

●伊藤善次氏通信

（石川氏宛五月廿六日受）

氏は四十二年度卒業目下鯖江歩兵第三十六聯隊醫務室に在勤さる

拜啓久敷御無沙汰仕候處如何御暮に候や小生は無事に御座候先日三里濱と云ふ處へ出張の途次藤島村と云ふを通過の際偶然田山氏開業の門前を通過一寸訪問仕候實に門前市をなすと云ふ盛大實に羨ましき限りに候（下略）

記者云ふ田山退一氏は同年度卒業にて久しく淺野川病院に奉職され今春故郷に歸りて開業されたり

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

人事

○神谷貞次郎氏　全氏は明治三十一年に本校醫學科を卒業して陸軍々醫となり累進して一等軍醫となられしが不幸にして病を得。ために休職となり石川縣河北郡高松村の海邊に開業傍ら保養せられしも病症漸次進み終に去五月九日死去せられたり後とには令夫人及び三人の子女あり痛惜に堪へず（享年三十七）

○中野源一氏　三十八年度卒業愛知縣北設樂郡下川村に開業の所去る二月十日永眠せられたりと謹んで哀悼の意を表す

○田中義雄氏　三十九年卒業の後埼玉縣比企郡小川町に開業大に敏腕を振ひしに去年中白玉樓中の人となられし由深く吊意を表す

○山碕教授　金澤病院長たる同教授は露領亞細亞視察の爲め本月五日午前八時金澤を發し石川縣事務官川崎氏及横山男爵と同濱敦賀を經て浦塩斯德に上陸しハルピンを經て滿州地方を視察して歸朝の由願はくは長途の行旅恙なく多大の珍話と利益を得て御歸朝の一日も早からん事を願ふや切なり、

○高安會長　本會長高安教授は山碕教授の不在中金澤病院長事務を執らるゝ事となりぬ、

○金子教授の不幸　同教授の嚴父永々病氣靜養中の所去月逝去せられたり謹んで吊意を表す、

○野田忠廣氏　元本校の生理及細菌衛生學教授たりし全氏は本校辭職後上京せられて東京痘苗製造所長となり更に轉じて內務省防疫課長となり久しく全課長として奉職中なりしが此度醫務課長に轉勤せられたり。尙ほ傳染病研究所部長にして兼任內務技師なる醫學博士北島多一氏は防疫課長となられたり

○松王數男氏　ペスト檢疫の爲め滿國へ招聘せられたる內務技師鈴本桓次、富山縣技師鶴來時文、奈良縣技師加藤雄吉、岐阜縣技師川久保定二、愛媛縣技師稻垣刀利太郎及警視廳の高橋幸三郎、野村德の諸氏は此頃任務を果し凱歌を奏し目出度歸任せられたるが獨り最もペストの激烈なり

し奉天擔任たりし大阪府防疫事務官松王敷男氏は就職以來鋭意惡疫撲滅に盡力し尚ほ一般衛生に關しても頗る建策するところあり清國官憲も氏の明晰なる頭腦と周到なる規劃とに依賴するところ少なからず檢疫事務は已に終了を告げたるにも拘らず爾後數月間留任して奉天に於ける一般衛生的設備の完全を期せられんことを希望し氏も之を容れ來る七月下旬迄滯在せらるゝ由

○片山良作氏　三十五年卒業後郷里に開業の所田上清貞氏洋行中同院醫員として名ありしが本年二月富山市五番町に於て眼科專門にて開業せられたり今後の發展を望むや切なり、

○樋口平次氏開業　（三十八年度）卒業後一年志願兵として入營せられ除隊後內科一部山碕教授の下に專ら內科研究の所近々金澤市賢坂辻の自宅に於て開業せらるゝ爲め病院を辭し東京へ研學の爲上京せられたり氏は資性溫良篤行の君子內科醫として最も適切なる資格を具有さる願はくは身体の壯健に意を用ゐられ可憐の患者に接し給はゞ期せずして門前市をなすや明かなり玆に謹んで君が前途の祝福を祈る、

○伊坂春氏　四十年度卒業後竹山病院に奉職中の所今回福井縣丹生郡越廼村蒲生に於て開業せられたり、

○增井榮太郎氏　四十年度卒業直に大津赤十字支部病院內科に奉職の所今回同院を辭し下平教授の下に外科を見學し近々中開業せらるゝ由

○今井外吉氏　所は京都府久世郡宇治町、四十一年度卒業後小松町勝木病院に奉職の所本年春小松町に於て開業せられたり

○竹中精一郎氏　（同年卒業）故里岐阜縣に開業の所今回東京市小石川區大塚窪町廿四番地へ轉任せられたり、

○木村朋三氏　（同年卒業）靜岡縣三島町水上にて開業せらる

○辻井禮太郎氏　（四十一年度卒業）東京井上眼科病院に奉職の所東京日本橋區龜島町一丁目三十九、田澤方へ移轉せらる、

○森粂次郎氏　（四十一年度）卒業後實業に從事せられ昨年來內科二部に研究中の所今回內科一部醫員拜命せられたり

○山岸缶氏　（四十二年度卒業）卒業後內科二部に研究中昨年五月上京同生病院に勤務されしが本年二月房州北條病院內科副部長として敏腕を振はる、

○奥山義盛氏　（四十三年度）卒業後內科二部佐々木教授の下に研究中の所今回同科醫員を奉職せらる、

○山崎重治氏　（同年卒業）內科一部研究中の所今回山碕內科一部醫員奉職せられたり、

○那谷與一氏　（同年卒業）神經科研究中四月上京せられたる氏は山田博士の大久保腦病院に入り大に勉學中なりと、同院は先きに井村勇作氏同醫員となられ今亦那谷氏の赴任せらるゝあり當神經科との連絡又不思議の緣と云ふべきなり、

＊　＊　＊　＊　＊
＊　＊　＊　＊　＊

會告

自明治四十四年三月廿六日
至仝　六月三日　校外特別會員會費調書

金額　期限　氏名

金參圓　自四十三年度
至四十七年度五ヶ年分　庄司正義君

金參圓	自四十一年度至四十三年度三ヶ年分	谷澤一郎君
金參圓	自四十二年度至四十四年度三ヶ年分	堀田圭三君
金參圓	自四十三年度至四十五年度三ヶ年分	明石秀次郎君
金壹圓	四十四年度	山田伊之助君
金壹圓	四十三年度	竹中繁次郎君
金參圓	自四十三年度至四十五年度三ヶ年分	辻岡律君
金參圓	仝	駿河尙庸君
金參圓	自四十四年度至四十六年度三ヶ年分	清水憲策君
金參圓	仝	佐藤進君
金參圓	仝	加藤大君
金七圓	自四十年度至四十八年度九ヶ年分	池田恒太郎君
金參圓	自四十三年度至四十五年度三ヶ年分	巨田政信君
金參圓	仝	片山常三郎君
金四圓	自四十二年度至四十七年度六ヶ年分	三木三郎君
金參圓	自四十三年度至四十五年度三ヶ年分	久高唯忠君
金貳圓	自四十二年度至四十四年度三ヶ年分	佐々木純一郎君
金參圓	自四十四年度至四十六年度三ヶ年分	阿波加憲吉君

以上

次號雜誌發刊

七月十日

次號原稿ノ切

七月二十五日